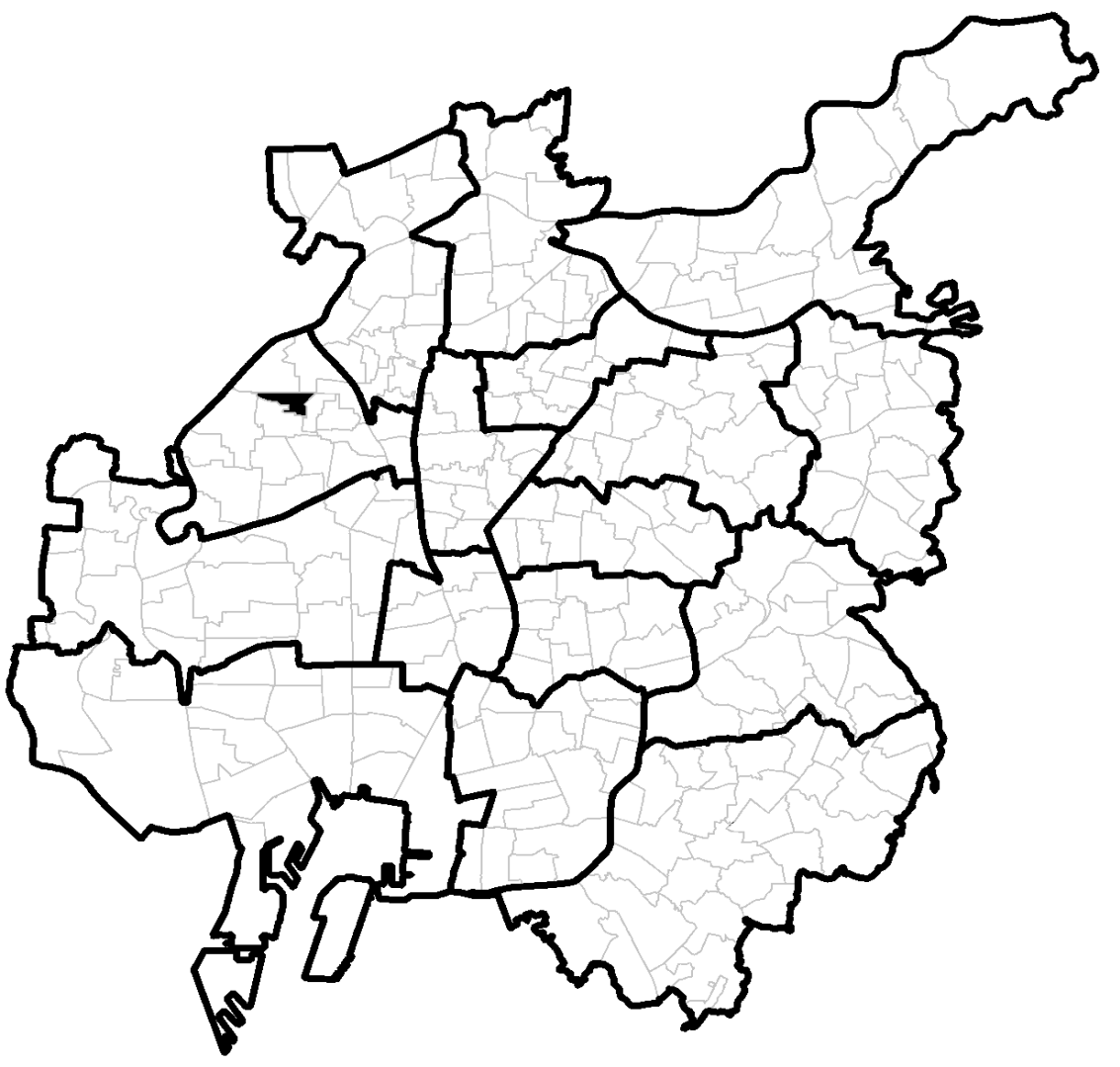
最終更新：	令和	7	年	3	月	31	日

話し合い開始年度	令和３年度

名古屋市　地区防災カルテ

中村　　区　　豊臣　　学区



災害対応の主役・原点は「自助・共助」です。

個人や家族の力、そしてご近所、町内会、学区などの地域コミュニティのなかで助け合っていくことが、「我がまち」の防災・減災を実現していく上で非常に大切となります。

本カルテは、「我がまち」の現状を把握・分析し、災害への備えや災害対応をどうすべきかを考え、具体的な取り組みにつなげていくための一助として整理しているものです。地域の皆様が「自分たちで何とかしよう」、「我がまちを自ら守っていこう」と考える機運につなげていただければ幸いです。

地区防災カルテの活用方法

○　地区防災カルテとは

地区防災カルテとは、地域の地形、歴史、災害リスク、防災活動状況など、防災に関連する情報を学区ごとにまとめたものです。

○　地区防災カルテを活用した取り組みの流れ

地域防災力向上のため

地区防災カルテのSTEP１・２で・・・
地域の現状、課題やニーズ（地域特性）を把握

地区防災カルテのSTEP３で・・・
地域特性に基づく防災活動を検討

検討した防災活動を実施

防災活動を通じた新たな課題の発見

想定し得る最大規模の風水害や地震・津波のハザードマップに基づいた取り組みを行いましょう！

○　地域特性に応じた防災活動の例

●学区の大部分が木造密集地域であるため、地震火災の対策として地域ぐるみで感震ブレーカーの設置促進を図った。
●学区内に多く居住している外国人住民に適切な避難行動を知ってもらうため、やさしい日本語・３か国語でチラシを作成した。

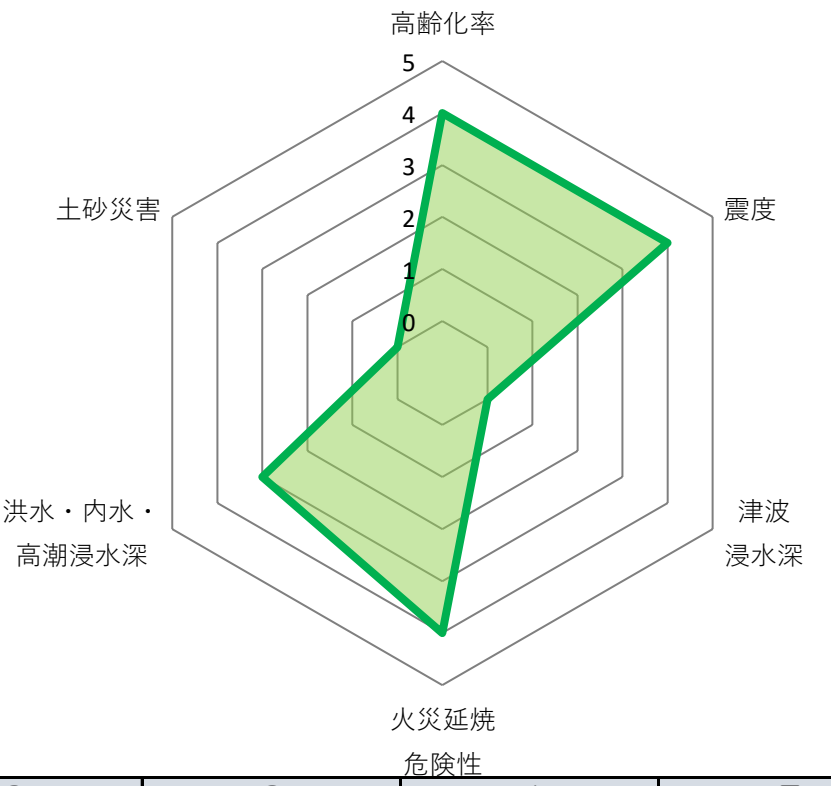
【STEP１】　地域特性の把握

1　地域特性の全体像

区分		項目	
1-1	地理的特性、社会的特性	1-1-1	地理的状況
		1-1-2	都市的状況
		1-1-3	人的状況
		1-1-4-1	災害履歴
		1-1-4-2	浸水実績図
		1-1-5-1～3	地域の歴史
		1-1-6	デジタル標高図
1-2	想定される災害リスク	1-2-1	震度分布、液状化可能性
		1-2-2	建物倒壊危険性、道路閉塞危険性、火災延焼危険性
		1-2-3	土砂災害（特別）警戒区域
		1-2-4	津波浸水深、津波浸水時間
		1-2-5	洪水浸水、家屋倒壊等氾濫、内水氾濫
		1-2-6	高潮浸水、ため池浸水
		1-2-7	その他の災害リスク
		1-2-8	災害リスクまとめ
1-3	指定避難所、指定緊急避難場所など	1-3-1	指定避難所、備蓄物資
		1-3-2	指定緊急避難場所
		1-3-3	要配慮者利用施設
		1-3-4	学区独自の取り組みや行事などの状況
		1-3-5	特記事項

【リスクレーダーチャート】
リスクレーダーチャートにより、学区の地域特性を把握しましょう。

	値	５段階	該当箇所
高齢化率	29.9%	4	1-1-3
震度	6強	4	1-2-1
津波浸水深	0m	0	1-2-4
火災延焼危険性	1,000～2,500棟未満	4	1-2-2
洪水・内水・高潮浸水深	1.0m～3.0m未満	3	1-2-5
土砂災害	警戒区域なし	0	1-2-3



【参考】５段階の基準

	0	1	2	3	4	5
高齢化率		15%未満	15～20%未満	20～25%未満	25～30%未満	30%以上
震度（南海トラフ）		5弱	5強	6弱	6強	7
津波浸水深	0m	0.3m未満	0.3～0.5m未満	0.5～1.0m未満	1.0～3.0m未満	3.0m以上
火災延焼危険性		100棟未満	100～500棟未満	500～1,000棟未満	1,000～2,500棟未満	2,500棟以上
洪水・内水・高潮浸水深	0.3m未満	0.3～0.5m未満	0.5～1.0m未満	1.0～3.0m未満	3.0～5.0m未満	5.0m以上
土砂災害	警戒区域なし	警戒区域に人家・施設なし	警戒区域に人家10件未満	警戒区域に人家10件以上	警戒区域に人家50件以上	警戒区域に人家100件以上

【参考】リスクレーダーチャート上の各項目の値がすべて一致する学区（区）				
上名古屋（西）	中村（中村）	豊臣（中村）		

1-1　地理的特性、社会的特性

1-1-1　地理的状況

面積	0.404	（㎢）	40.4	（ha）
河川、海、池等	特になし	その他	沖積低地に位置し海抜低い	
山、がけ地等	特になし			

1-1-2　都市的状況

主な木造住宅密集地域	一部該当あり【中村地区】（名古屋市都市計画マスタープラン）
町並み保存地区	なし（名古屋市町並み保存要綱）
その他	

1-1-3　人的状況（原則「令和6年度学区別生活環境指標」の値を採用）

	当学区		名古屋市
	（人）	（比率%）	（比率%）
常住人口（人）	4,731		
15歳未満	421	8.9%	12.4%
65歳以上	1,415	29.9%	25.4%
70歳以上※1	1,033		
要配慮者※2	769		
外国人	142	3.0%	4.0%
世帯数（世帯）	2,668		
町内会推計加入率	78.1%		66.0%
その他			

※1　70歳以上は、令和7年3月１日現在の公簿人口の値

※2　要配慮者数は、令和7年3月31日現在の高齢者・障害者等、災害時において特に配慮を要する方の数

1-1-4-1　災害履歴

時期	災害名	主な被害状況等
1891年 (明治24年)	濃尾地震	M8.4　死者190人、負傷者499人（名古屋市）
1944年 (昭和19年)	昭和東南海地震	M8.0　死者59人、負傷者197人（名古屋市）
1959年 (昭和34年)	伊勢湾台風	上陸時の中心気圧929.5hPa、最大瞬間風速45.7m/秒、 最大潮位N.P.+5.31m 死者・行方不明者1,851人、負傷者40,528人（名古屋市）
2000年 (平成12年)	東海豪雨	最大降水量97mm/時間、428mm/日、総降水量566.5mm（名古屋地方気象台観測） 死者4人、負傷者47人（名古屋市）

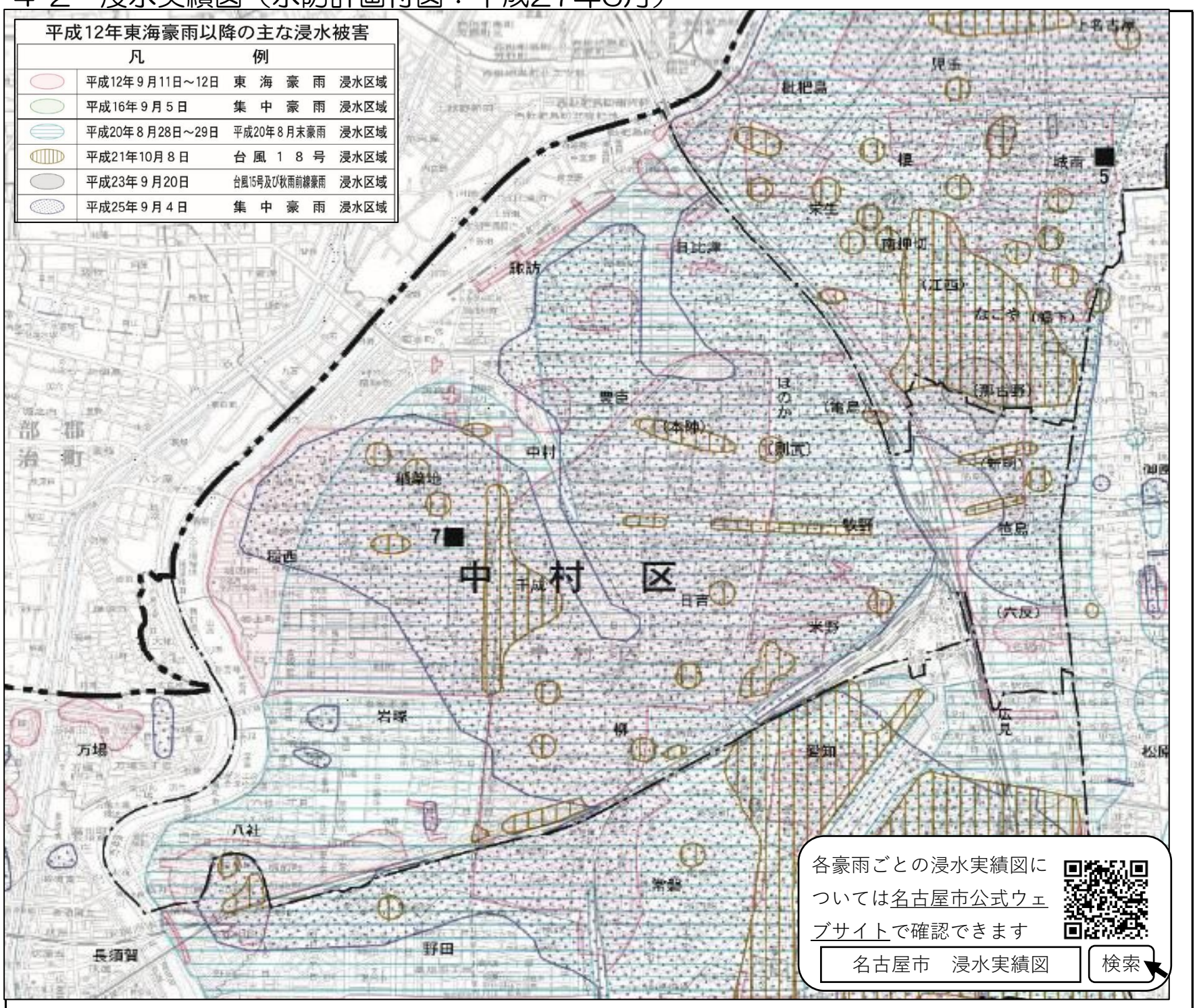
○中村区 災害の歴史年表

※江戸時代以前の月の表記は西暦を基準にしています。
　　は南海トラフで発生した大地震です。

年　代	主 な で き ご と
1586(天正 13) 年 1 月 18 日	天正地震。飛騨もしくは尾張を震源とする巨大内陸地震。名古屋の震度は 6 ～ 7 と推定。
1707(宝永 4) 年 10 月 28 日	宝永地震。名古屋の震度は 5 ～ 6 と推定。名古屋城の建物が大きく損傷。
1854(嘉永 7) 年 12 月 23 日	安政東海地震。名古屋の震度は 5 ～ 6 と推定。翌 24 日、安政南海地震。 名古屋の震度は 5 と推定。
1891(明治 24) 年 10 月 28 日	濃尾地震。内陸地震としては国内最大級、震源は岐阜県根尾村。 名古屋市の震度は 6 ～ 7 と推定。
1937(昭和 12) 年 10 月 1 日	西区と中区から一部を分離して中村区誕生。面積 12.52 ㎢、人口 108,500 人
1944(昭和 19) 年 12 月 7 日	東南海地震。震源は紀伊半島沖。名古屋市の震度は 5 ～ 6 と推定。
1945(昭和 20) 年 1 月 13 日	三河地震。震源は三河湾。名古屋市の震度は 4 ～ 5 と推定。37 日前の東南海地震に誘発された地震と推定。
1959(昭和 34) 年 9 月 26 日	伊勢湾台風。　名古屋港の潮位は観測史上最高の 5.31mを記録。 中村区では死者・行方不明者 6 名、負傷者 708 名。
2000(平成 12) 年 9 月 11 日	東海豪雨。名古屋市の約 37%が浸水。中村区では床上浸水 133 世帯、床下浸水 3,316 世帯。

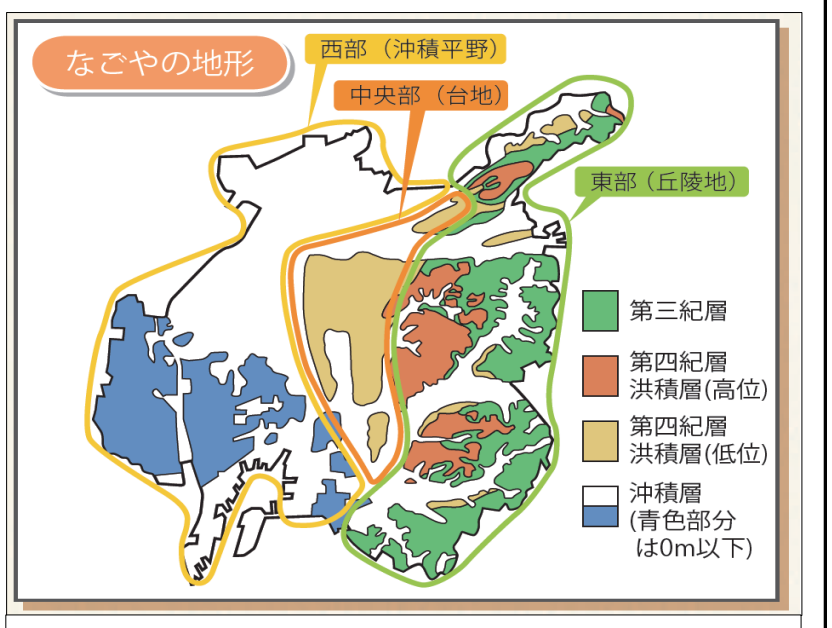
南海トラフで起きた地震は約100～150年に１回。ということは、、、、。

1-1-4-2　浸水実績図（水防計画付図：平成27年6月）



1-1-5-1　地域の歴史（土地の成り立ち、伝承など）

（自由記述）

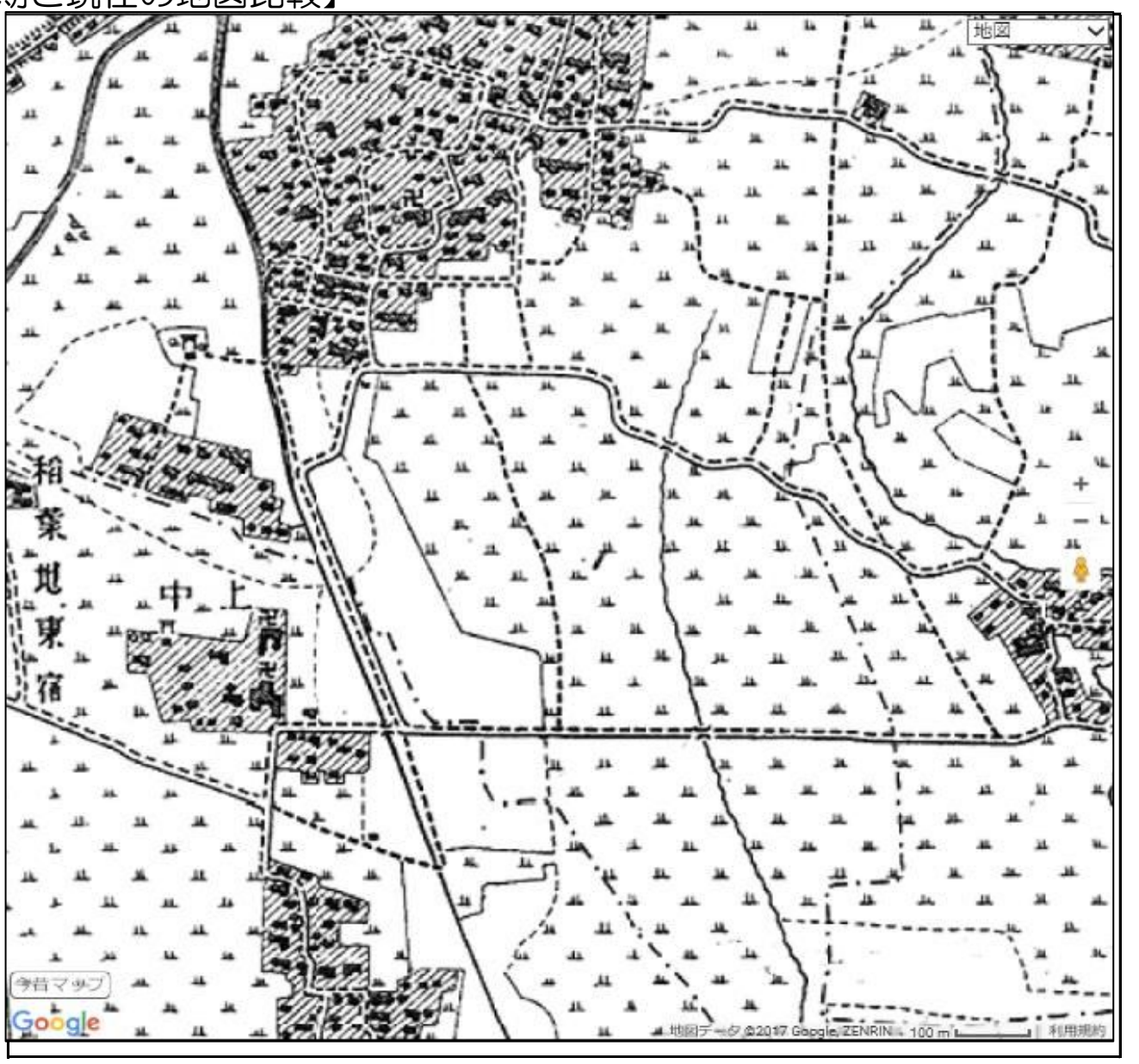


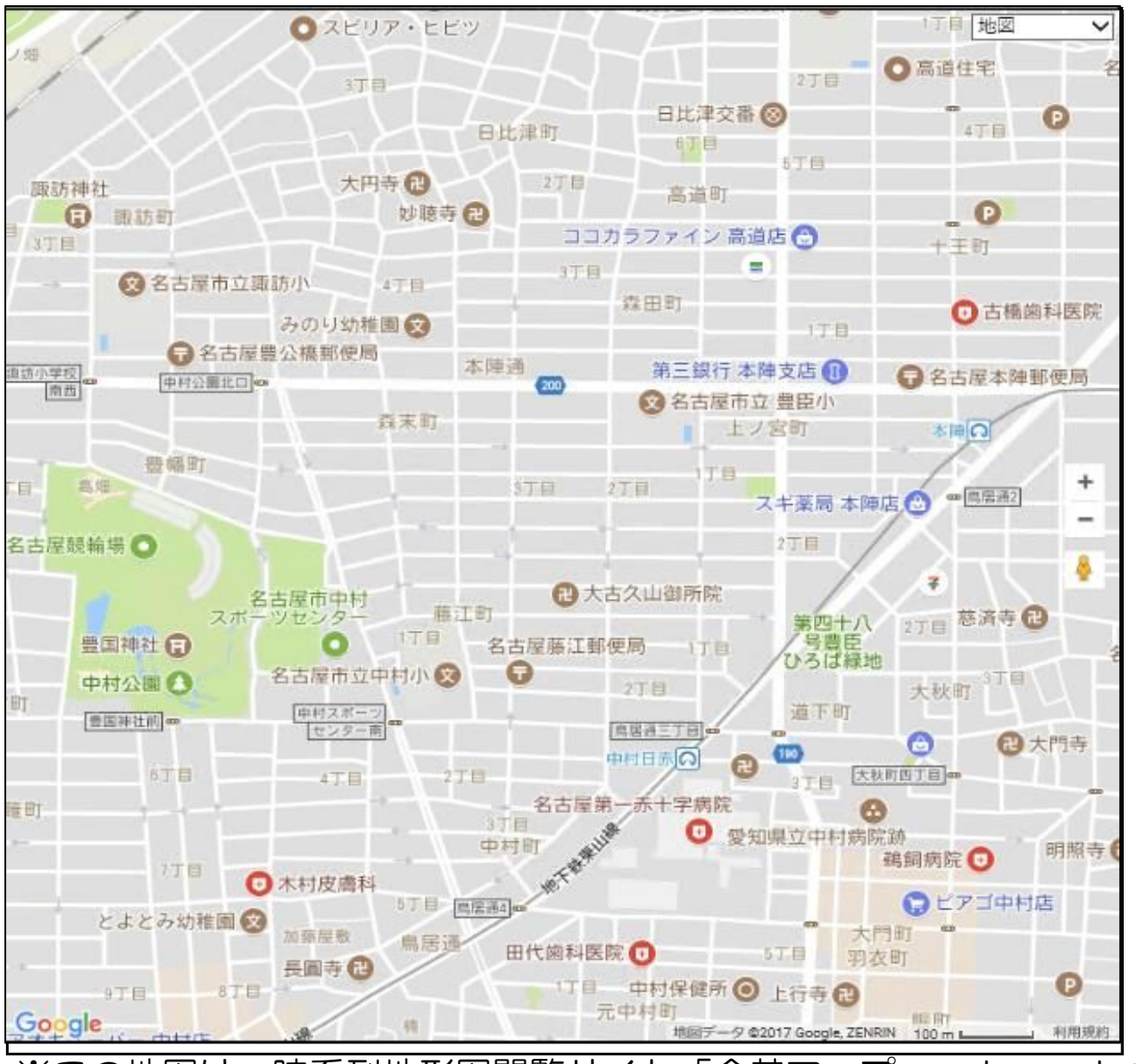
出典／生物多様性2050なごや戦略

1-1-5-2　地域の歴史（「なごやの町名」、「過去の災害から学ぶ名古屋」などの資料を整理）

防災由来のありそうな町名		防災由来についての調査結果（各記述）		
現町名	旧町名	「なごやの町名」	「明治期地図」	「過去の災害から学ぶ名古屋」
上ノ宮町	―	字名に由来。農地を住宅地化	水路、水田	―
	則武町	則武氏の所領田に由来。肥沃な土地	住宅地、水路、水田	―
	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯
豊幡町	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯
	稲葉地町	稲干場や芝草地で稲や葉に囲まれた	庄内川沿い、池、水田	一面に稲や葉に囲まれていた
	中村町	中村郷に由来。農業を主とした	水田	―
鳥居通	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯
	稲葉地町	稲干場や芝草地で稲や葉に囲まれた	庄内川沿い、池、水田	一面に稲や葉に囲まれていた
	栄生町	一説に、サコはきれいな砂浜を表すアイヌ語	水田	一説に、狭所の意
	則武町	則武氏の所領田に由来。肥沃な土地	住宅地、水路、水田	―
中村町	―	中村郷に由来。農業を主とした	水田	―
	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯
	稲葉地町	稲干場や芝草地で稲や葉に囲まれた	庄内川沿い、池、水田	一面に稲や葉に囲まれていた
藤江町	―	字名に由来。農地を住宅地化	水路、水田	―
	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯
	中村町	中村郷に由来。農業を主とした	水田	―
本陣通	稲葉地町	稲干場や芝草地で稲や葉に囲まれた	庄内川沿い、池、水田	一面に稲や葉に囲まれていた
	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯
	則武町	則武氏の所領田に由来。肥沃な土地	住宅地、水路、水田	―
道下町	―	字名に由来。かつて遊里ヶ池あり	水路、水田	―
	則武町	則武氏の所領田に由来。肥沃な土地	住宅地、水路、水田	―
	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯
	中村町	中村郷に由来。農業を主とした	水田	―
名楽町	則武町	則武氏の所領田に由来。肥沃な土地	住宅地、水路、水田	―
	米野町	「こもの」（茂った草の野）の転訛	水田	茂った草を意味する「こもの（薦野）」に由来
	中村町	中村郷に由来。農業を主とした	水田	―
	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯
森末町	―	字名に由来。農地を住宅地化	水路、水田	―
	中村町	中村郷に由来。農業を主とした	水田	―
	日比津町	一説に、低湿地を表す泥津（ひじつ）の転訛	庄内川沿い、水田	付近はかつて湿地帯

【明治期と現在の地図比較】





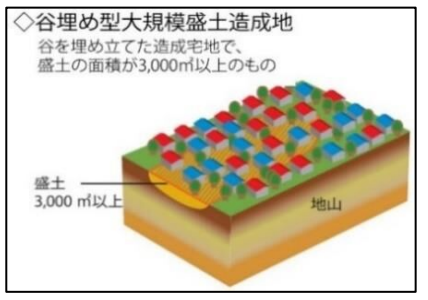
※この地図は、時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」（(C)谷　謙二）により作成したものです。

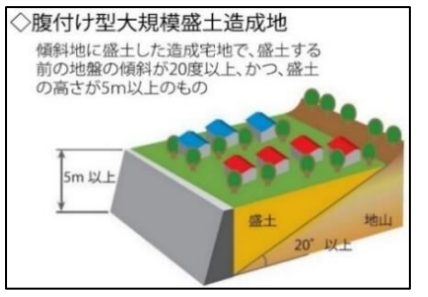
1-1-5-3　地域の歴史（その他）

【大規模盛土造成地】
　中村区には、大規模盛土造成地はありません。

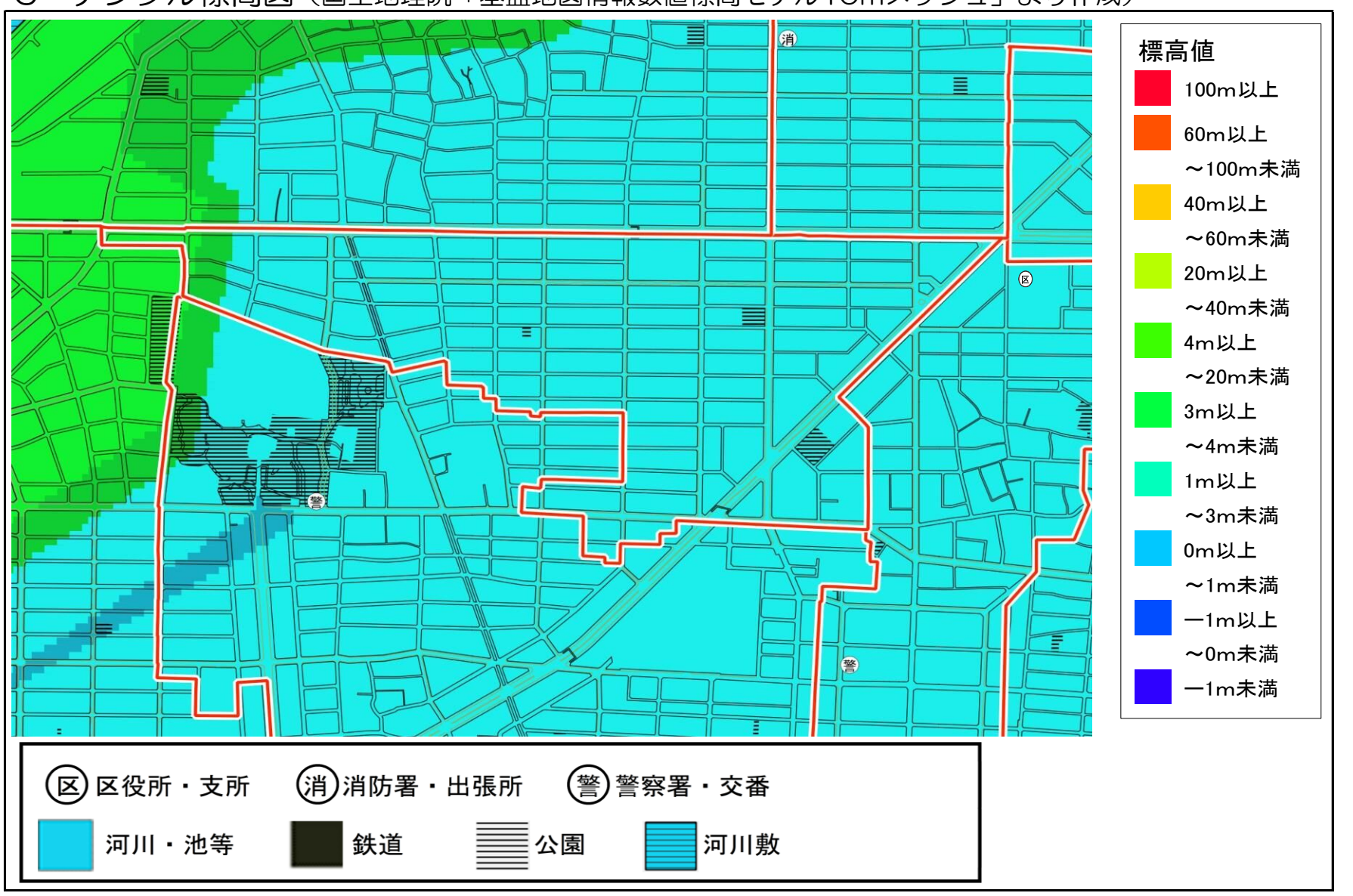
大規模盛土造成地マップについては名古屋市公式ウェブサイトで確認できます
名古屋市　大規模盛土造成地　検索

※　大規模盛土造成地とは
　国土交通省のガイドラインに基づき、平成25年度に本市の調査結果を大規模盛土造成地マップとして公表しています。
※市内に分布している大規模盛土造成地の概ねの分布状況を示したもので、盛土の危険度を表したものではありません。
※滑動崩落の要因には、盛り土材、地下水、造成年代、地盤の勾配などが大きく関与しています。
※滑動崩落とは、地震動により、盛土部分が旧地形に沿って流動、変動または斜面方向へ移動することを指し、降雨による土砂崩れとは異なります。





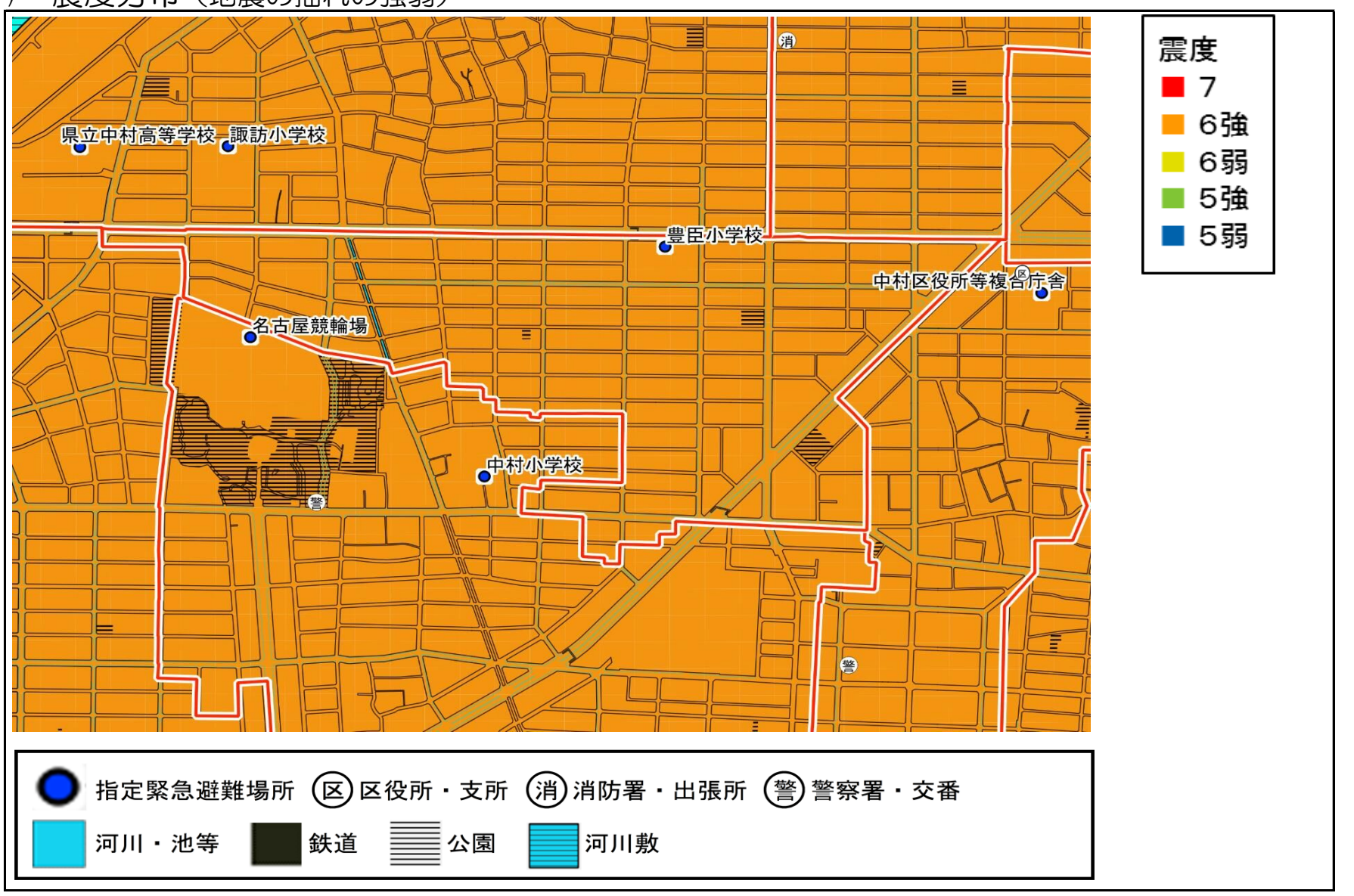
1-1-6　デジタル標高図（国土地理院「基盤地図情報数値標高モデル10mメッシュ」より作成）



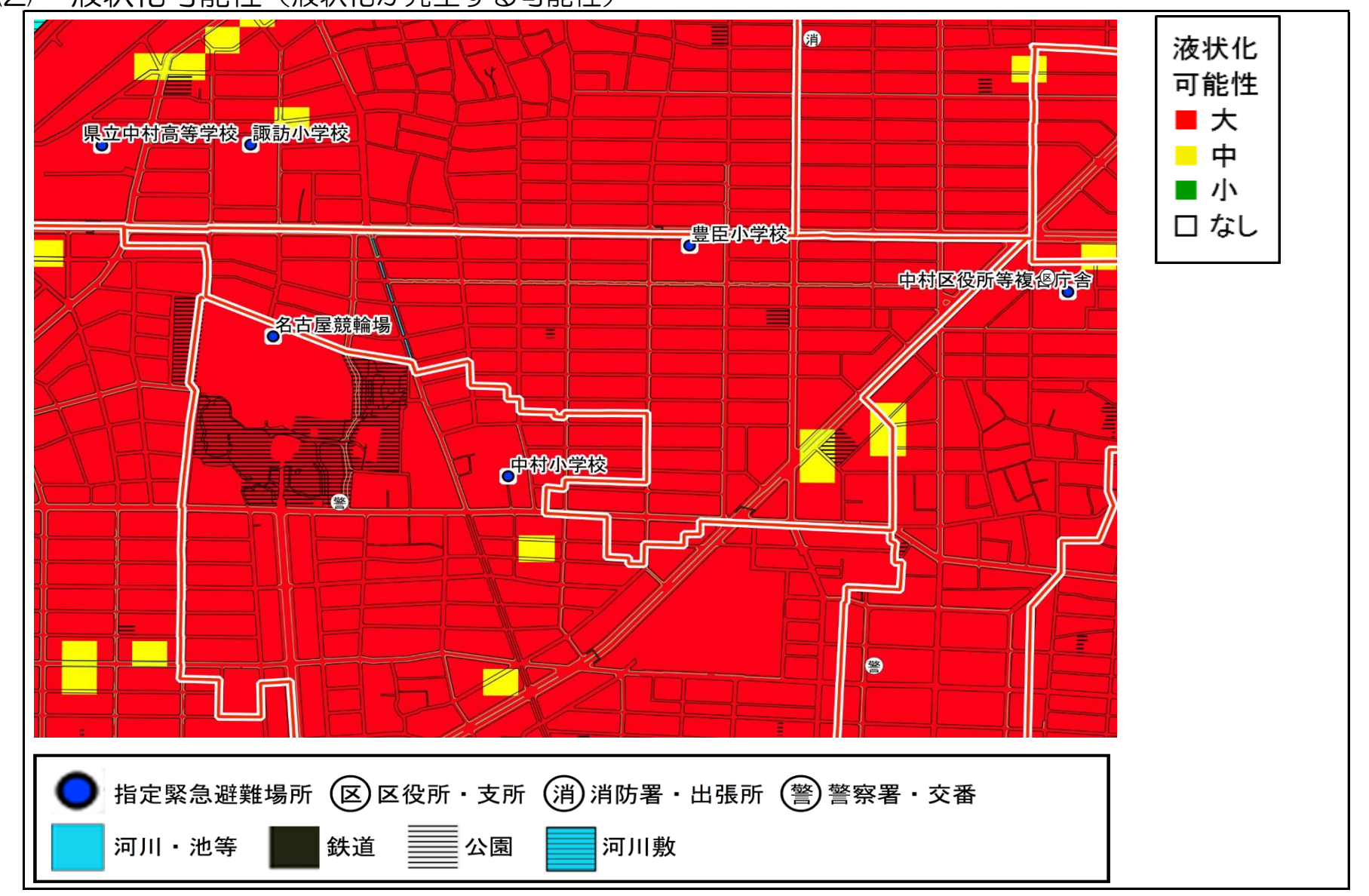
1-2　想定される災害リスク（あらゆる可能性を考慮した最大クラス（土砂災害を除く））

1-2-1　地震ハザードマップを基に作成

(1)　震度分布（地震の揺れの強弱）



(2)　液状化可能性（液状化が発生する可能性）



参考（南海トラフ地震臨時情報・事前避難対象地域について）

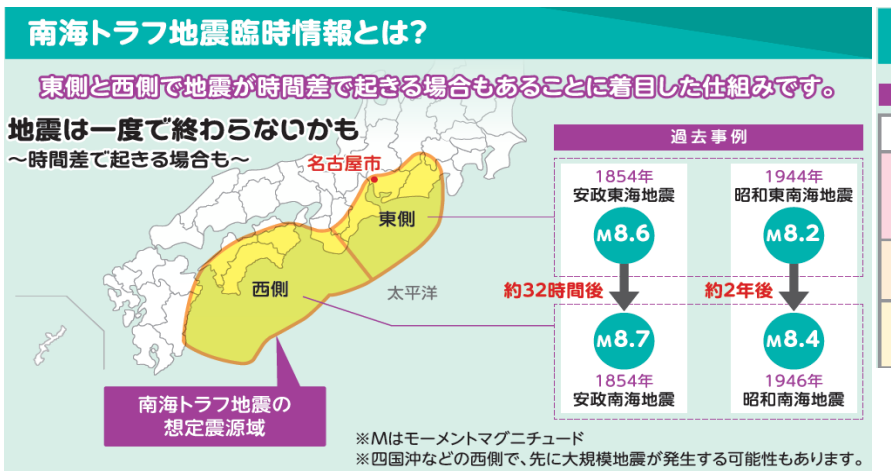
〇南海トラフ地震臨時情報とは？

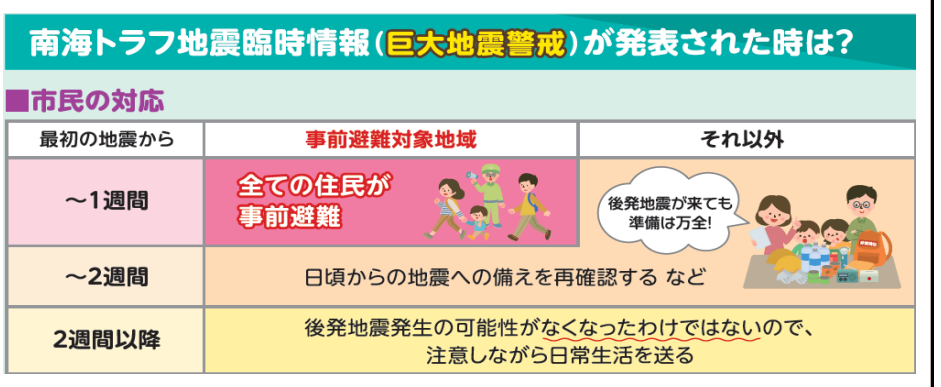
過去の南海トラフ地震で、東側と西側で地震が時間差で起きる場合もあることに着目した仕組みで、南海トラフ沿いで一定規模以上の地震が発生した場合など、南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁より発表される情報です。

〇事前避難対象地域とは？

南海トラフ地震の想定震源域の西側でマグニチュード8.0以上の最初の地震が発生すると、気象庁より「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」が発表されます。その後の地震発生で河川堤防が沈下し、すぐに浸水が始まった場合に避難が間に合わない恐れのある地域のことです。名古屋市では対象地域に1週間の事前避難を呼びかけます。

なお、豊臣学区には事前避難対象地域はありません。



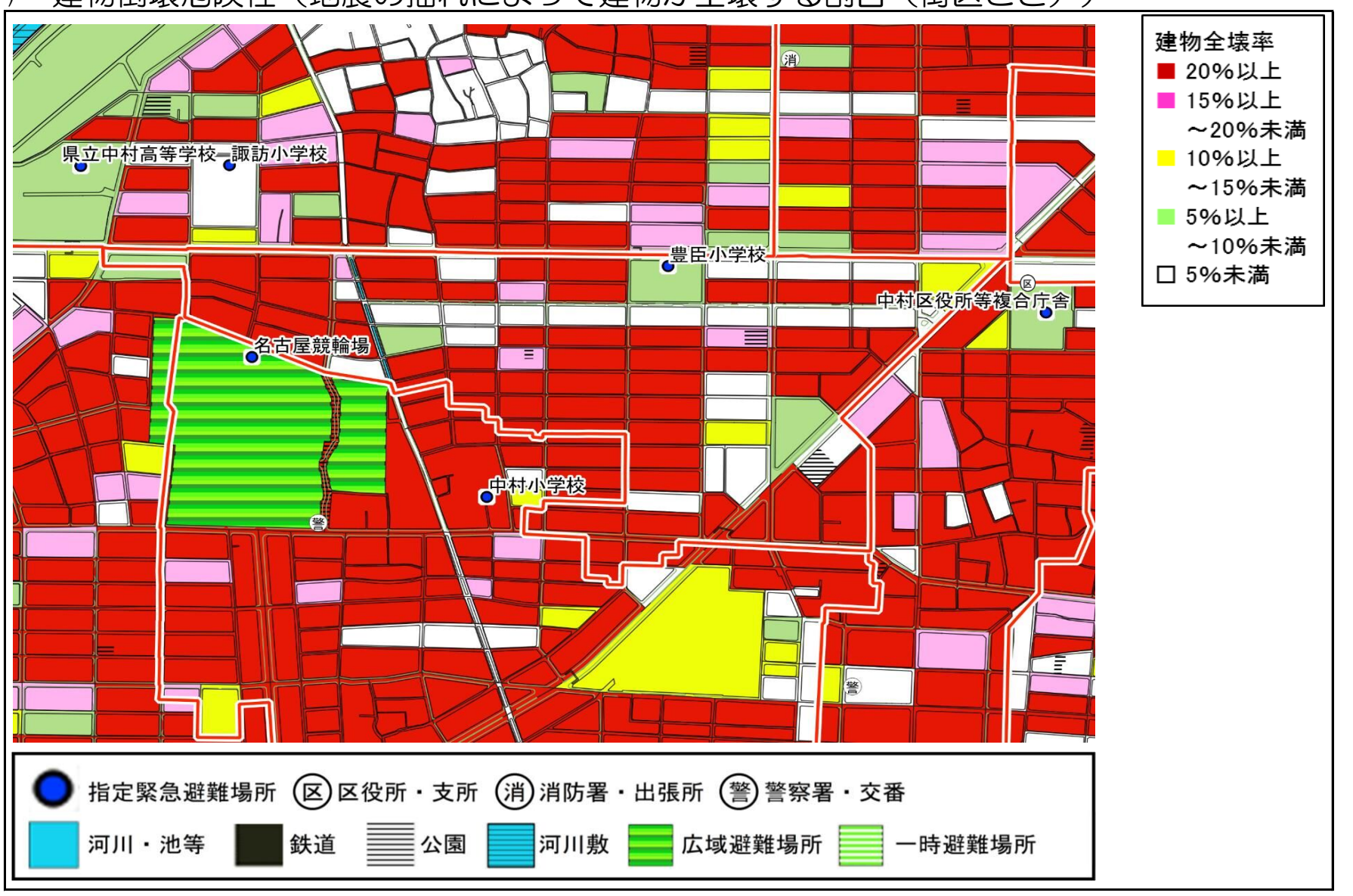


南海トラフ地震臨時情報については
名古屋市公式ウェブサイトで確認できます
名古屋市　南海トラフ地震臨時情報　検索

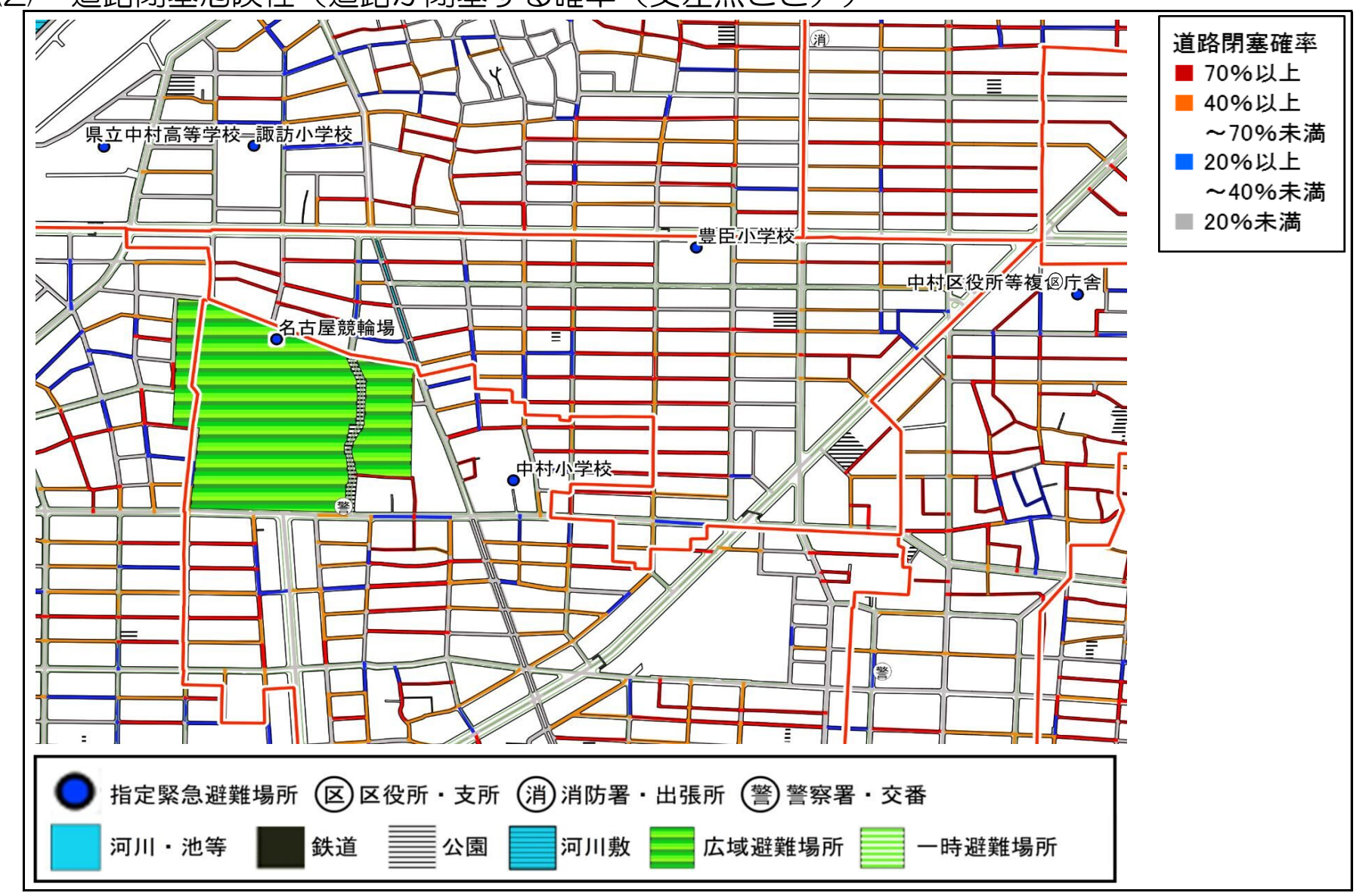
事前避難対象地域については
名古屋市公式ウェブサイトで確認できます
名古屋市　事前避難対象地域　検索

1-2-2　震災に強いまちづくり方針（地震災害危険度評価図）を基に作成

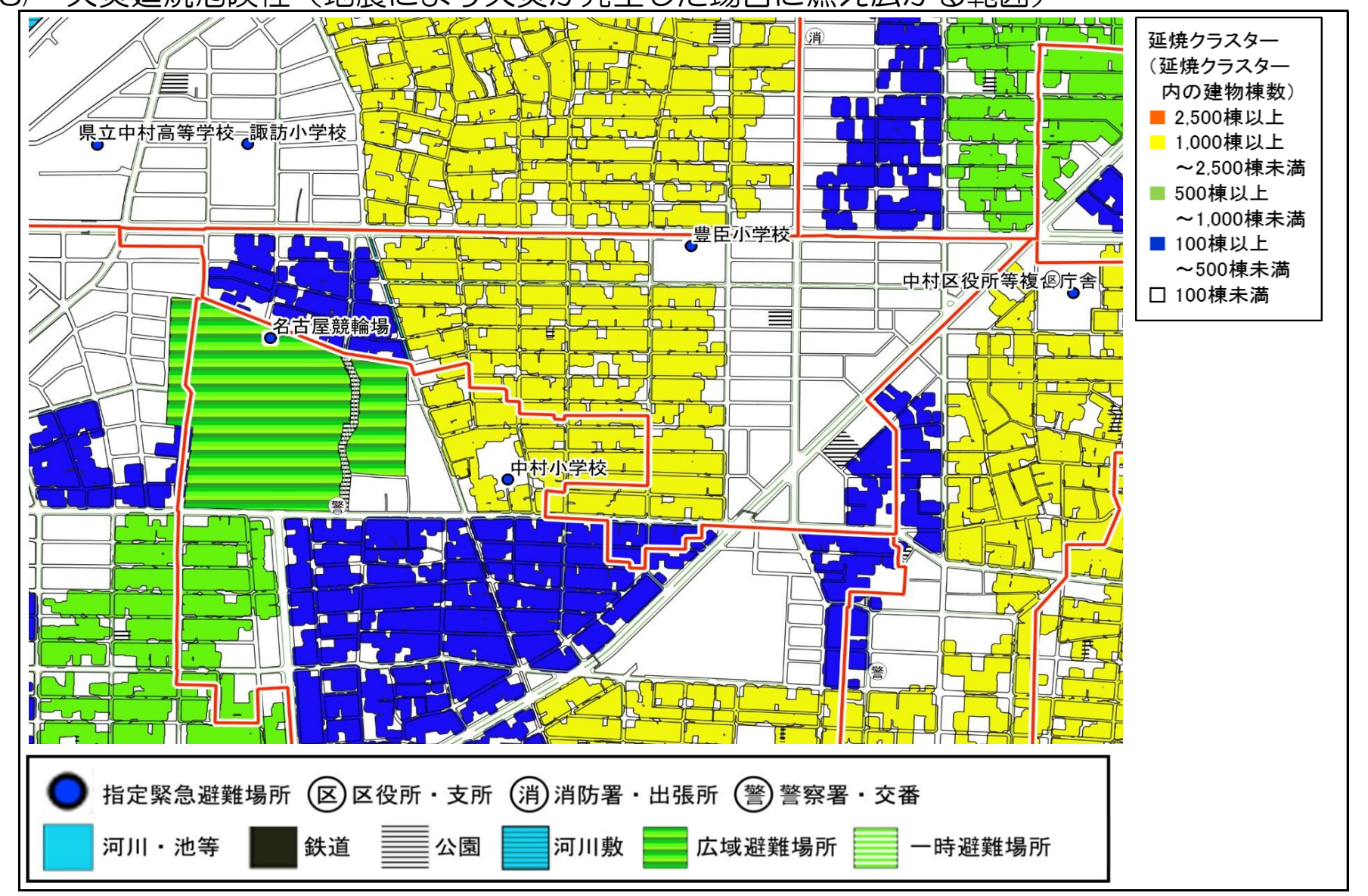
（1）　建物倒壊危険性（地震の揺れによって建物が全壊する割合（街区ごと））



⑵　道路閉塞危険性（道路が閉塞する確率（交差点ごと））



(3)　火災延焼危険性（地震により火災が発生した場合に燃え広がる範囲）

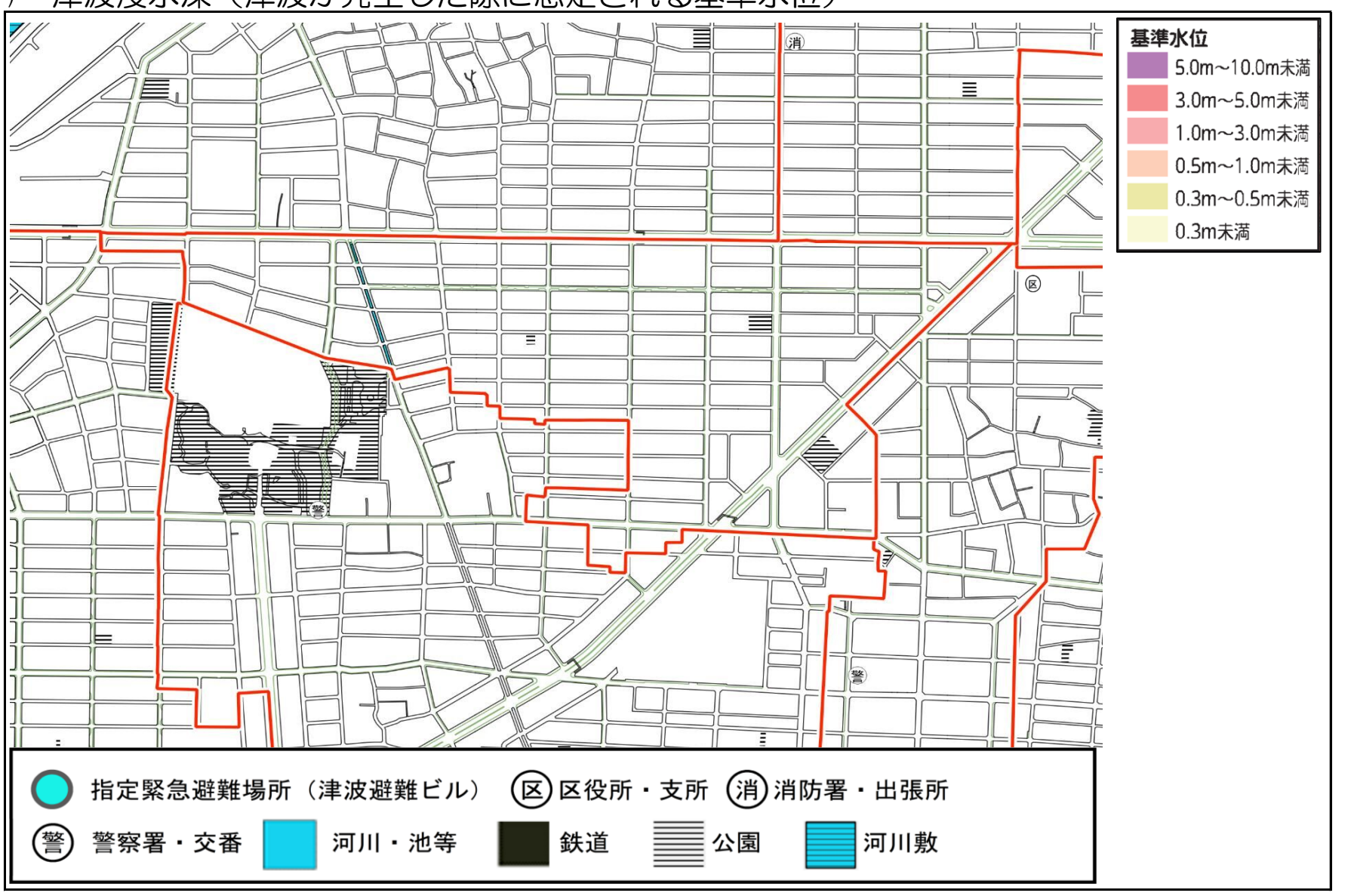


1-2-3　愛知県土砂災害防災情報

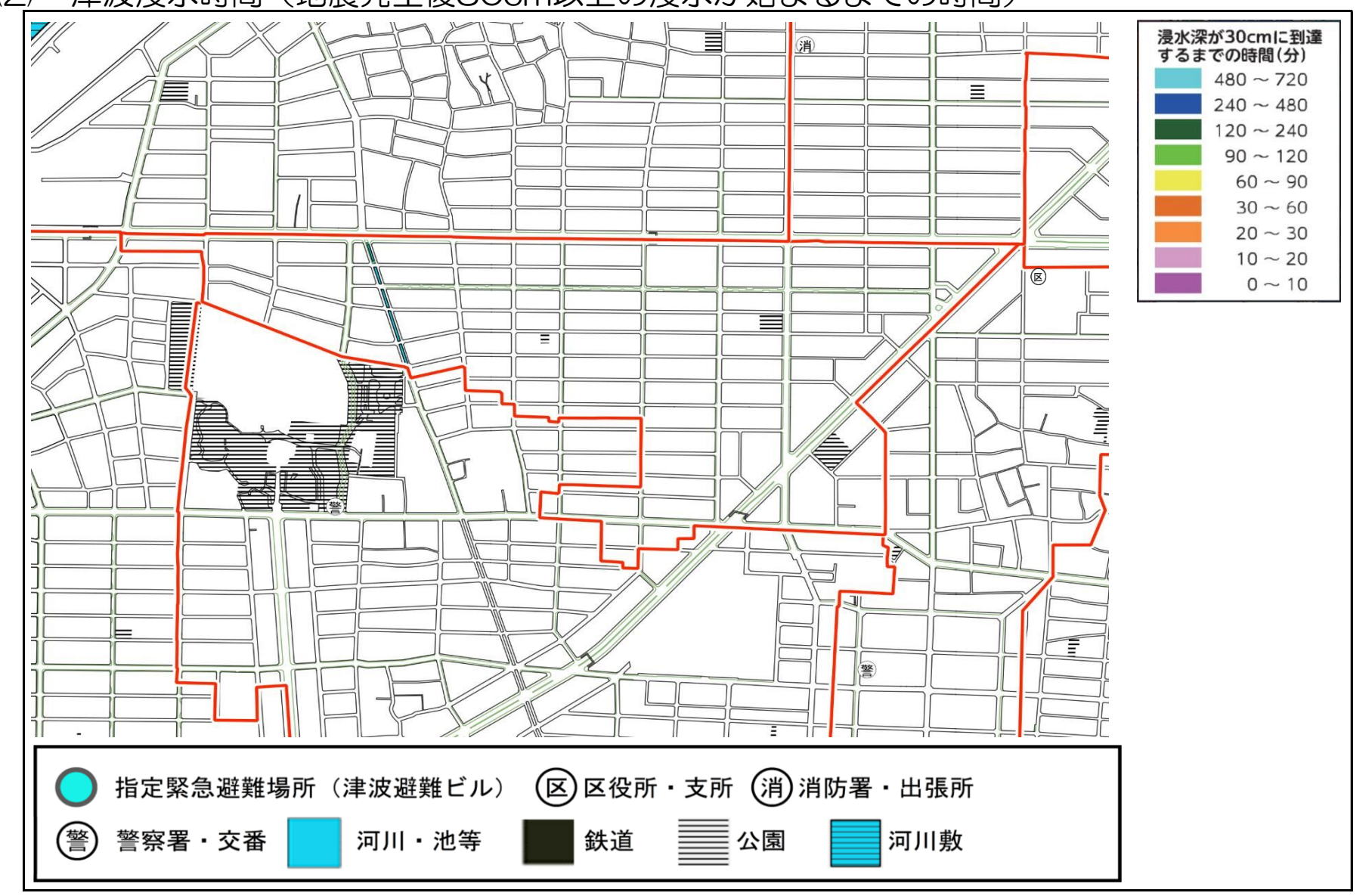
(1)　土砂災害（特別）警戒区域（土砂災害で危害が生じる恐れがあると認められる土地）

1-2-4　津波ハザードマップを基に作成

（1）　津波浸水深（津波が発生した際に想定される基準水位）

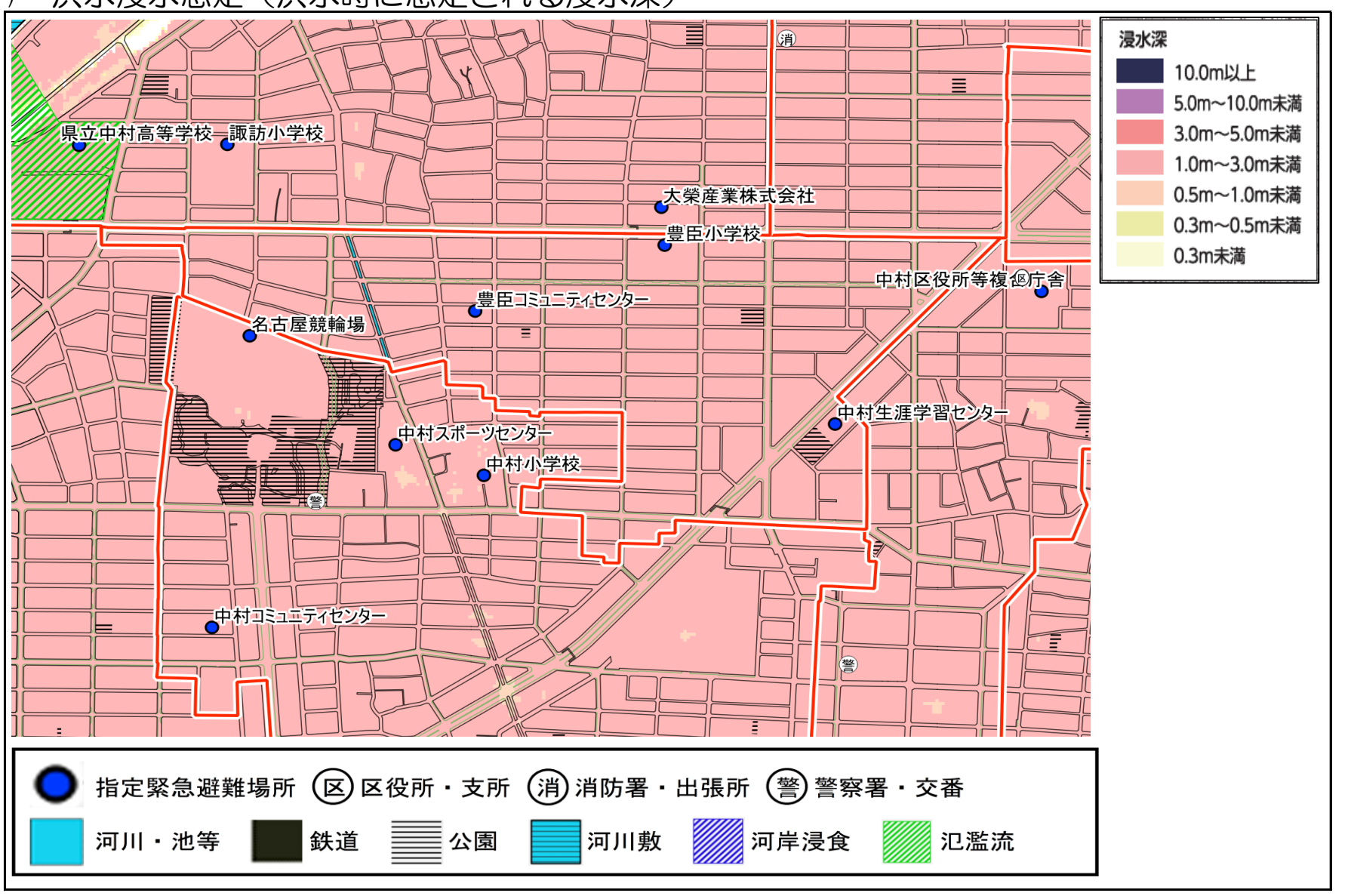


（2）　津波浸水時間（地震発生後30cm以上の浸水が始まるまでの時間）

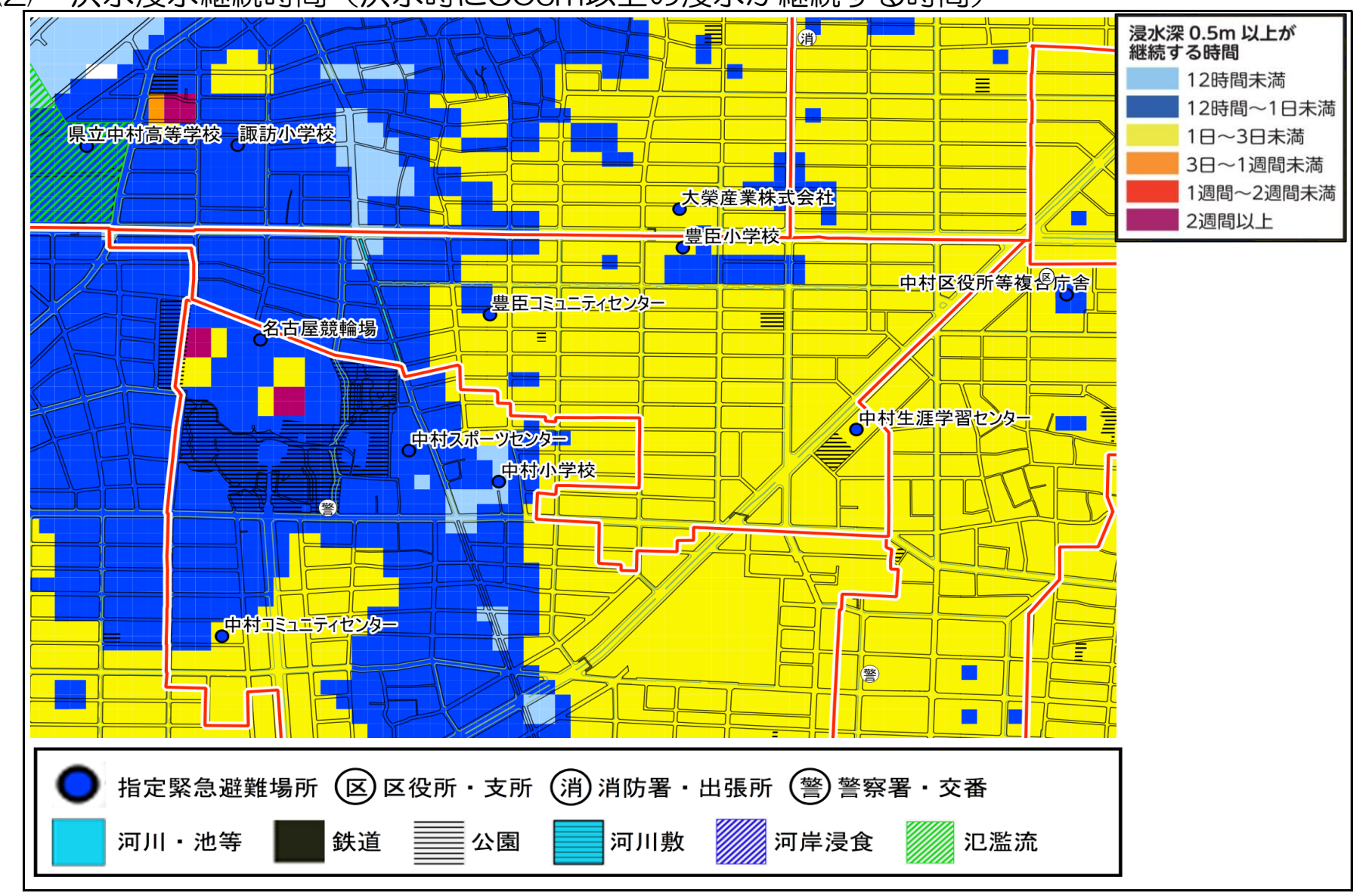


1-2-5　洪水・内水ハザードマップを基に作成

(1)　洪水浸水想定（洪水時に想定される浸水深）

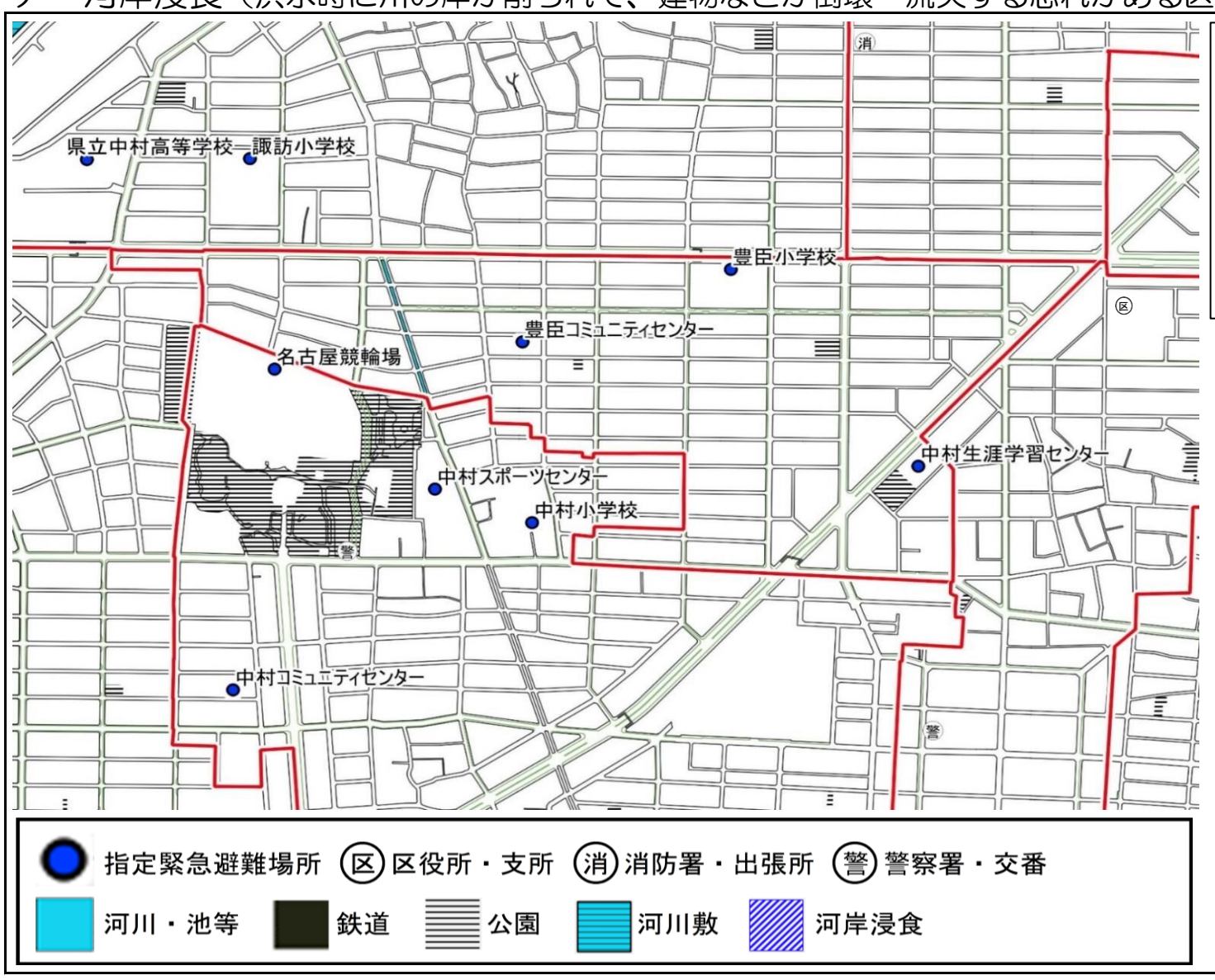


(2)　洪水浸水継続時間（洪水時に50cm以上の浸水が継続する時間）



(3)　家屋倒壊等氾濫想定区域

ア　河岸浸食（洪水時に川の岸が削られて、建物などが倒壊・流失する恐れがある区域）

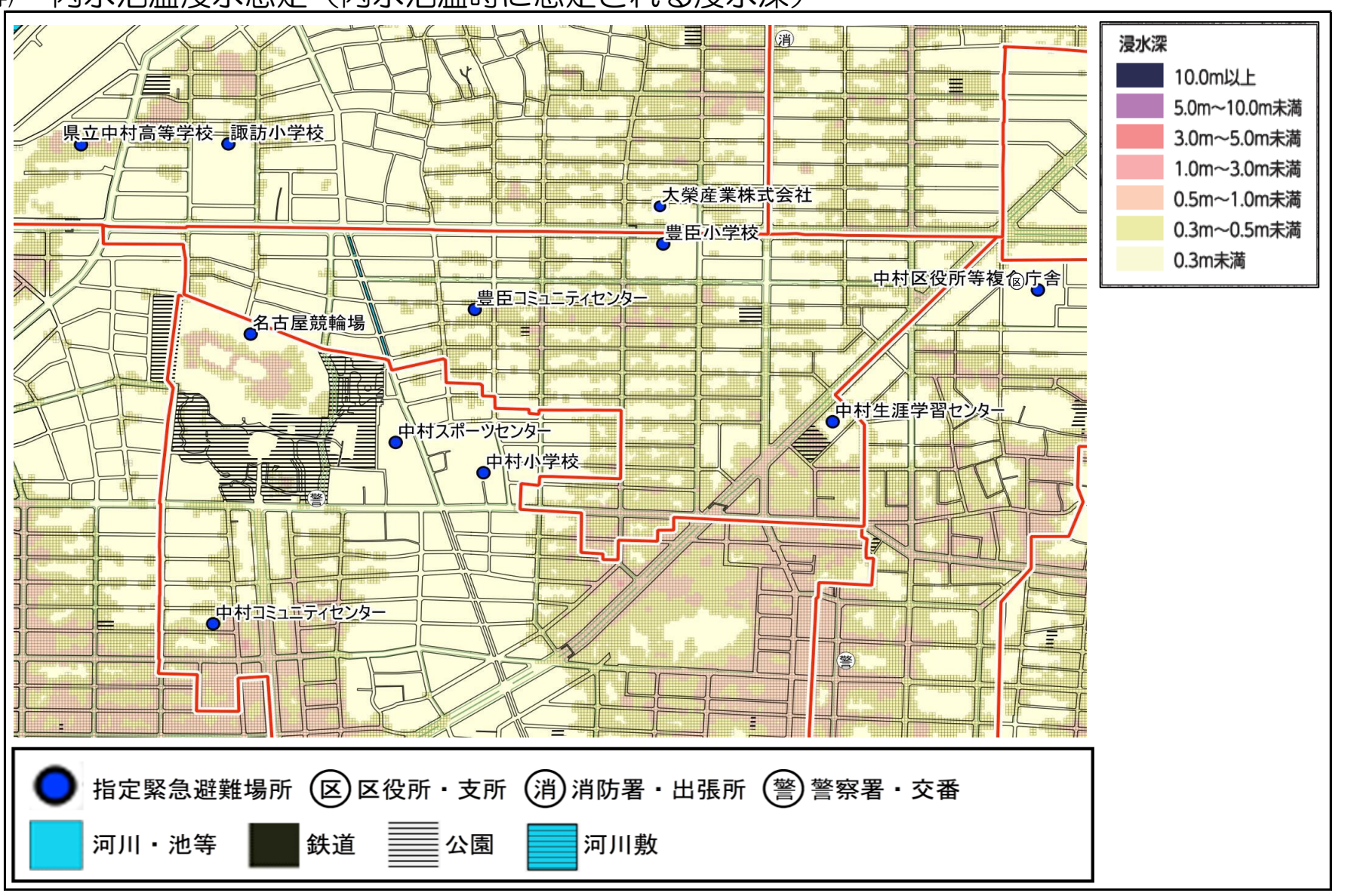


家屋倒壊等氾濫想定区域のうち**河岸浸食**のみを示しています。

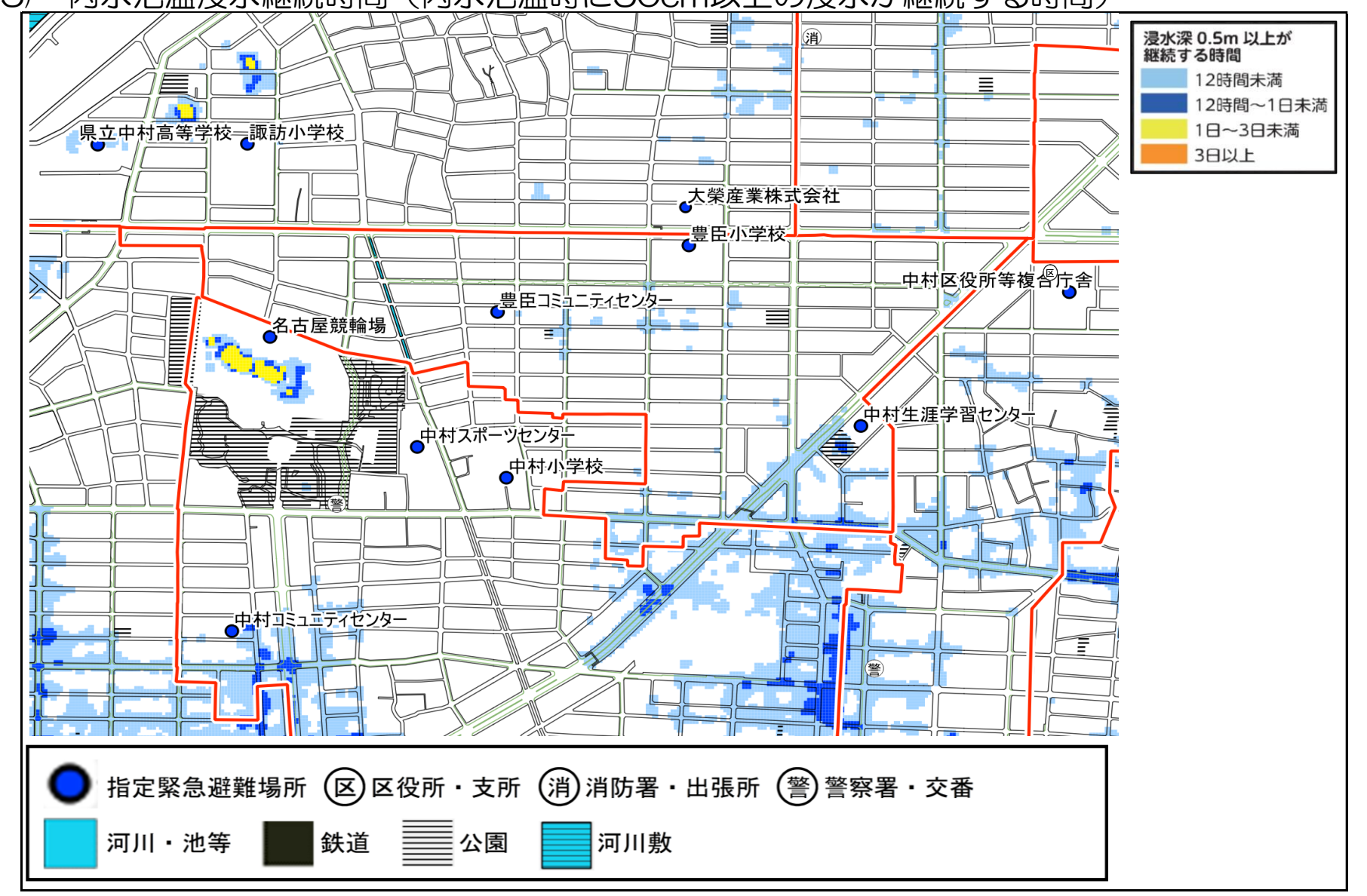
イ　氾濫流（洪水の氾濫流により、建物などが倒壊・流失する恐れがある区域）

家屋倒壊等氾濫想定区域のうち**氾濫流**のみを示しています。

(4)　内水氾濫浸水想定（内水氾濫時に想定される浸水深）

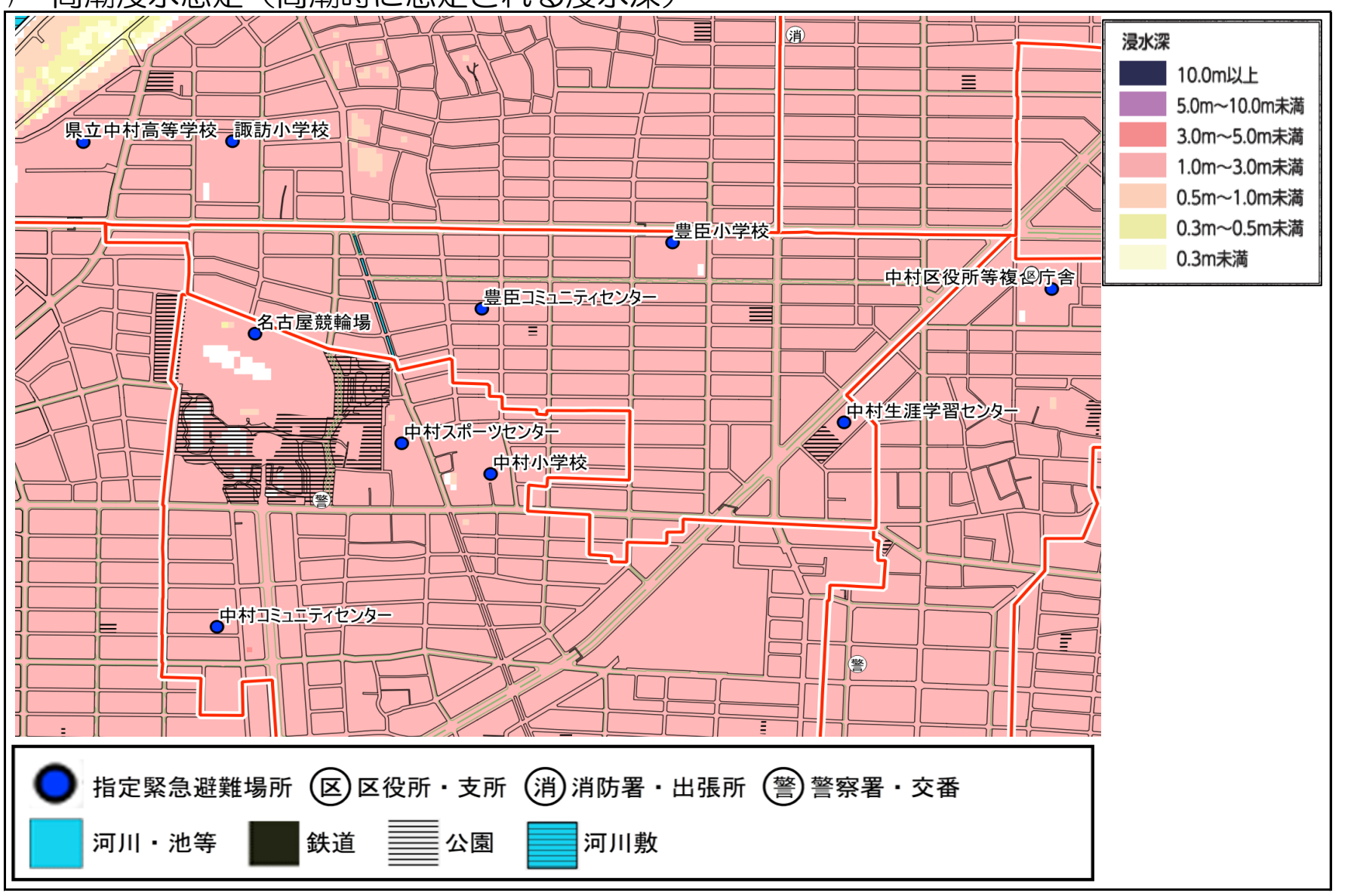


(5)　内水氾濫浸水継続時間（内水氾濫時に50cm以上の浸水が継続する時間）

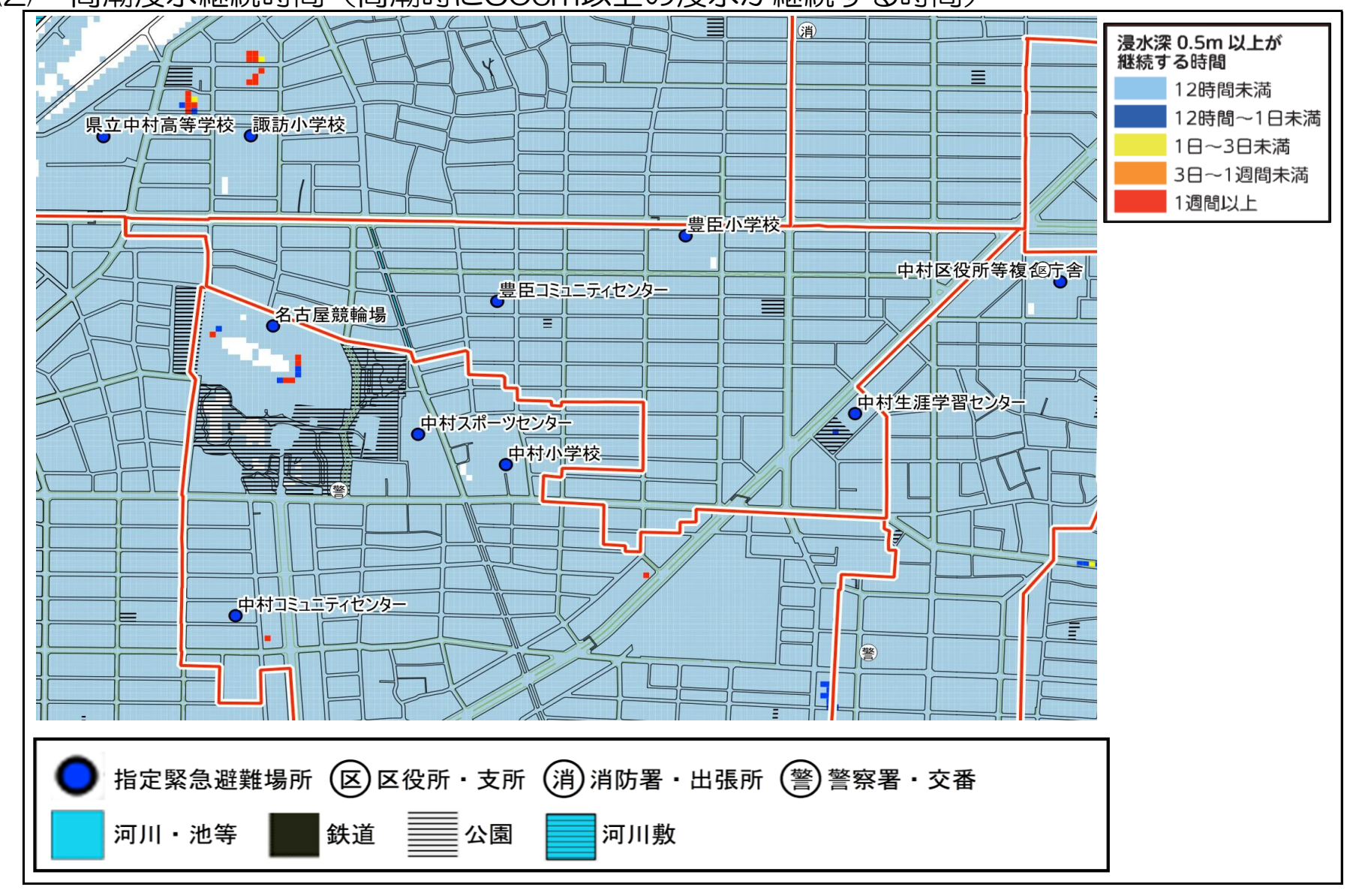


1-2-6　高潮・ため池ハザードマップを基に作成

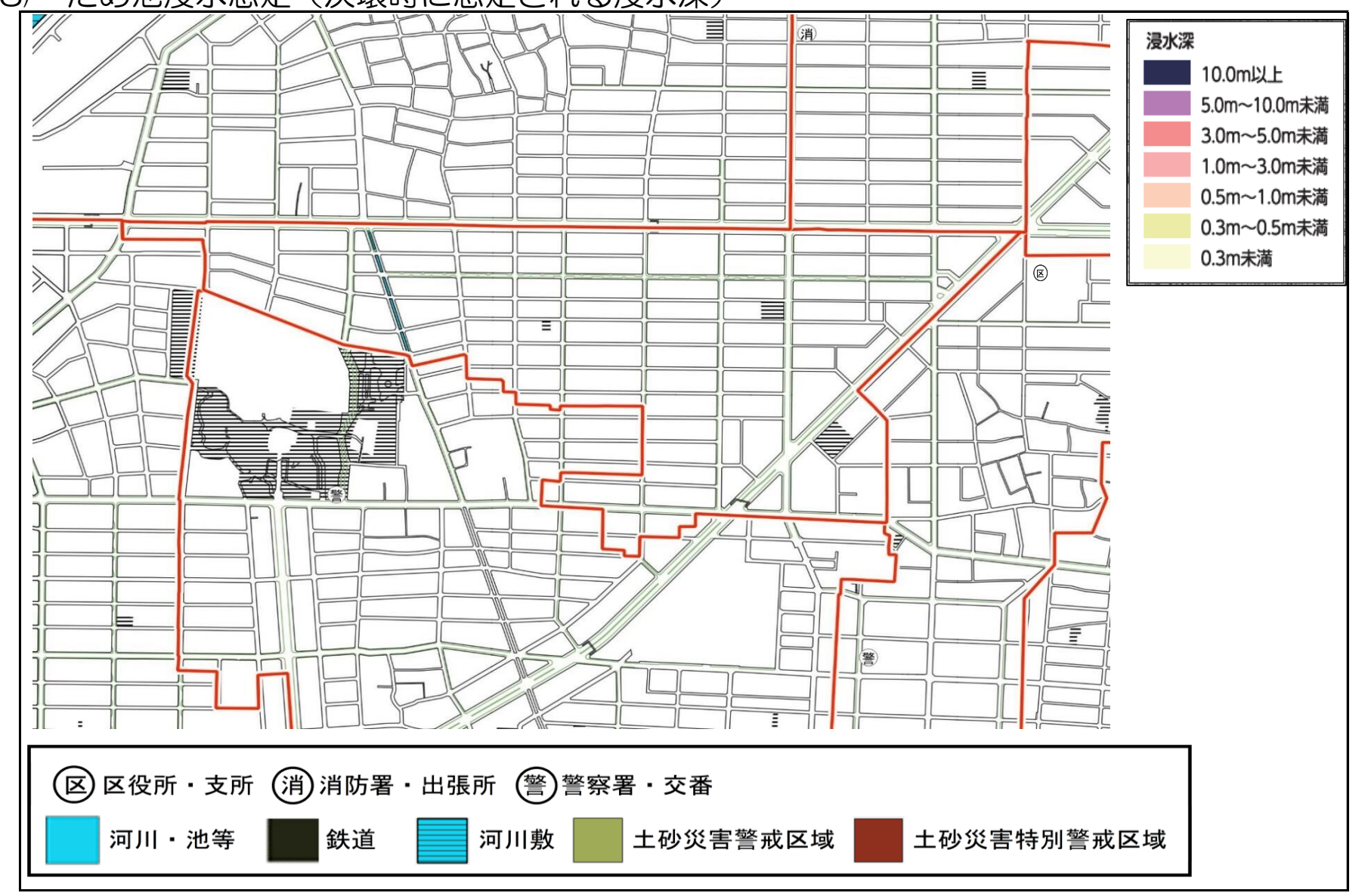
(1)　高潮浸水想定（高潮時に想定される浸水深）



(2)　高潮浸水継続時間（高潮時に50cm以上の浸水が継続する時間）



(3)　ため池浸水想定（決壊時に想定される浸水深）



1-2-7　その他の災害リスク

（自由記述）
【活断層】
●猿投ー高浜断層帯（想定震度６強）
●養老ー桑名ー四日市断層帯（中村区の想定震度６弱）

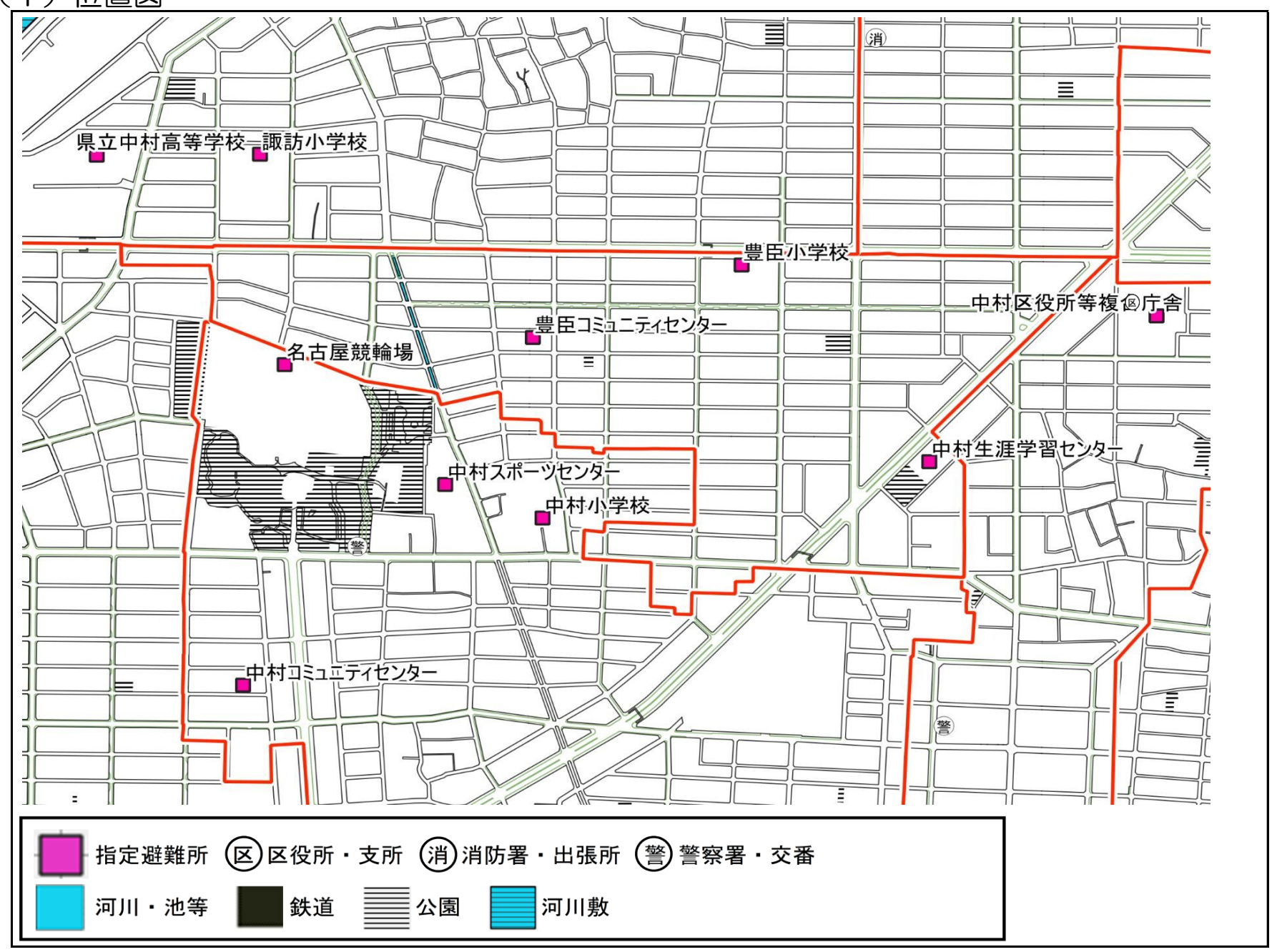
1-2-8　災害リスクまとめ（各種ハザードマップの情報を整理）

<table>
<tr><th colspan="2">区分</th><th>災害リスクの評価</th><th>災害リスクの解説</th></tr>
<tr><td colspan="2">震度</td><td>概ね６強</td><td>地震の揺れの強弱を示す。
震度5弱：固定していない家具が移動することがある
震度5強：固定していない家具が倒れることがある
震度6弱：耐震性の低い木造住宅が傾いたり倒れることがある
震度6強：耐震性の低い木造住宅は傾くものや倒れるものが多くなる
震度　７：耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことがある</td></tr>
<tr><td colspan="2">液状化</td><td>学区のほぼ全体で可能性大</td><td>液状化が発生する可能性を示す。
建物への被害や避難が困難になる等の恐れがある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">建物倒壊危険性</td><td>あり（ほぼ学区全体で、建物全壊率２０％以上）</td><td>地震の揺れによって建物が全壊する割合を街区ごとに示す。
建物が倒壊し、下敷きになり被害を受ける恐れがある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">道路閉塞危険性</td><td>あり（ほぼ学区全体で、道路閉塞確率７０％以上）</td><td>道路が閉塞する確率を交差点ごとに示す。
避難が困難になったり、緊急車両が通行できず救援活動が困難になる恐れがある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">火災延焼危険性</td><td>あり（学区の広範囲において、火災延焼の危険性（延焼クラスター）が比較的大きく、特に西側において顕著）</td><td>地震の揺れによって地区内で火災が発生した場合に、どの範囲の建物に燃え広がるかを示す。
火災に巻き込まれ被害を受ける恐れがある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">土砂災害（特別）警戒区域</td><td>なし</td><td>土砂災害により危害が生じる恐れがあると認められる土地を示す。
土砂災害に巻き込まれて被害を受ける恐れがある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">津波浸水深</td><td>なし</td><td>津波が発生した際の基準水位を示す。基準水位とは、津波浸水想定の浸水深に津波が建物等に衝突した際の水位の上昇を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位のこと。
30cmの津波でも流される恐れがあり、1mの津波に巻き込まれると死亡率100%と言われている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">津波浸水開始時間</td><td>なし</td><td>地震発生後、津波または堤防沈下等により被害が発生する恐れのある30cm以上の浸水が始まるまでの時間を示す。</td></tr>
<tr><td colspan="2">事前避難対象地域</td><td>なし</td><td>地震動に伴う堤防沈下の影響により概ね地震発生から30分以内に30cm以上の浸水が生じる地域を示す。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">浸水深</td><td>洪水</td><td>あり（学区全体1.0～3.0m未満）</td><td rowspan="3">洪水・内水・高潮の要因別に、想定される浸水深を示す。
自宅の階層と比較し在宅避難の可否等の検討に活用する。
【浸水の目安】
・浸水深0.5m～3.0m未満：1階浸水
・浸水深3.0m～5.0m未満：2階浸水
・浸水深5.0m以上：3階浸水
【避難時の危険】
・男性で0.7m以上、女性で0.5m以上の浸水で避難が困難になる。
・0.3m～0.5m未満の浸水で車のエンジンが停止
・0.5m以上の浸水で車が浮き、車の中に閉じ込められる。</td></tr>
<tr><td>内水</td><td>あり（学区の広範囲で0.3～0.5m未満、一部0.5～1.0m未満が点在）</td></tr>
<tr><td>高潮</td><td>あり（学区全体1.0～3.0m未満）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">浸水継続時間</td><td>洪水</td><td>学区西側は12時間～1日未満だが、その他は概ね1日～3日未満</td><td rowspan="3">洪水・内水・高潮の要因別に、避難が困難になる可能性がある50cm以上の浸水が継続する時間を示す。
備蓄物資や在宅避難の可否等の検討に活用する。</td></tr>
<tr><td>内水</td><td>12時間未満が点在、一部12時間～1日未満の箇所あり</td></tr>
<tr><td>高潮</td><td>学区全体が12時間未満</td></tr>
<tr><td rowspan="2">家屋倒壊等氾濫想定区域</td><td>河岸浸食</td><td>なし</td><td>洪水時に川の岸が削られて、建物などが倒壊・流失する恐れがある区域で、早期の立退き避難が必要</td></tr>
<tr><td>氾濫流</td><td>なし</td><td>洪水の氾濫流により、建物などが倒壊・流失する恐れがある区域で、早期の立退き避難が必要</td></tr>
<tr><td colspan="2">ため池</td><td>なし</td><td>ため池の水位が平常時の水位において、地震等の自然災害によりため池の堤体に、万が一異常が生じ、決壊した場合に想定される浸水深を示す。</td></tr>
</table>

1-3　指定避難所、指定緊急避難場所など（令和7年3月31日現在）
（お住まいの区・学区に関わらず、どなたでも最寄りの場所に避難することが出来ます。）

1-3-1　指定避難所

（１）位置図



（２）指定避難所一覧及び備蓄物資

指定避難所	収容人員※	食糧	飲料水	毛布	災害用トイレ				地下式給水栓	日用品セット	間仕切り	投光器	発電機	簡易式スロープ	テレビ・発電池	衛生用品	特設公衆電話	避難所開設キット
					下水道直結	くみ取り	簡易パック	簡易洋式便座										
		食	ℓ	枚	基	基	回	個										
豊臣小学校	296	2,250	156	500	1	2	3,600	27	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
豊臣コミュニティセンター	59	450	36	100	1	2	1,200	0								○		○
中村生涯学習センター	470	1,800	108	400	1	3	6,000	0								○		○
（地域独自の備蓄物資）（自由記述）																		

※収容人員は緊急対応初期の段階における就寝可能な面積（1人あたり2㎡）を目安に算定していますが、
避難者数や避難生活の状況等に応じて必要な規模の避難スペース確保に努めるなど柔軟に対応する必要があります。

1-3-2　指定緊急避難場所

区分	名　　称	対応する災害種別					
		洪水・内水氾濫	土砂災害	津波	高潮	地震の揺れ	大規模な火事
屋外	豊臣小学校グラウンド					○	×
	中村小学校グラウンド					○	×
	諏訪小学校					○	×
	中村区役所等複合庁舎					○	×
	中村高等学校					○	×
	中村公園					○	○
	中村小学校					○	×
屋内	豊臣小学校	2階以上	－	－	2階以上		
	豊臣コミュニティセンター	2階以上	－	－	2階以上		
	中村生涯学習センター	2階以上	－	－	2階以上		

N階以上：N階以上は避難可能、○：避難可能、×：避難不可、－：被害が想定されていない

指定避難所と指定緊急避難場所の違いや、指定避難所・指定緊急避難所の一覧は名古屋市公式ウェブサイトでお知らせしています

名古屋市　指定緊急避難場所・指定避難所　検索

指定避難所にある備蓄物資や資機材の使い方、物資の供給体制などについては「名古屋における備蓄物資及び指定避難所資機材ガイドブック」でお知らせしています

名古屋市　備蓄物資及び指定避難所資機材　検索

1-3-3　要配慮者利用施設（水防法等の避難確保計画／浸水防止計画対象施設）

保育所	託児所たんぽぽ,スクルドエンジェル保育室とよとみ園,託児所　ひまわり（泊まれる保育＆学童）
幼稚園	上の宮幼稚園
児童福祉施設	子育て応援ひまわりサポート,子育て応援ひまわりサポートPlus,豊臣小学校トワイライトスクール
障害者福祉施設	小規模多機能ホーム　よろず家本陣,ひまわりキッチン,ゆめこうぼう,共同生活援助にじの木(共同生活援助にじの木道下),ラフォンテ本陣
高齢者福祉施設	医心館　本陣,平野整形外科,小規模多機能ホーム　よろず家本陣,ほんじんの森,宅老所はじめのいっぽ,グループホーム　サライ中村公園,とよとみの憩,まごころ
その他施設	豊臣小学校

（令和6年6月：名古屋市地域防災計画から抜粋）

1-3-4　学区独自の取り組みや行事などの状況

（自由記述）

1-3-5　特記事項（地域特性に関すること）

（自由記述）

【STEP２】　防災活動の把握

２　防災活動の全体像（令和7年3月31日）

区分	事項	具体的な活動メニュー	実施状況	該当箇所
地域の防災リーダー	災害対策委員・災害救助地区本部委員の育成	防災に関する一般的な研修を実施	○	2-1-1
		地域の災害リスクに関する研修を実施	○	
		職務等に関する研修を実施	○	
	その他の防災リーダーの育成	災害対策委員・災害救助地区本部委員以外の防災リーダーを育成		2-1-3
	役割分担	発災時の防災リーダーの役割を検討・決定		2-1-4
避難行動	避難の判断	避難の必要性や避難のタイミングを検討・決定		2-2-1 2-2-2
	避難経路・避難先の確認	避難経路上の危険個所を確認		
		指定緊急避難場所の開錠方法を確認		
	情報伝達・安否確認	地域住民への避難情報の伝達方法や安否確認の方法について検討・決定	◎	
	要配慮者への支援	要配慮者の避難の支援方法を検討・決定		
	地域住民への周知	地域ごとで決定した避難の判断基準等を周知		
		危険箇所や避難経路に関する情報を周知		
各活動の事前準備	避難所開設・運営の事前準備	避難所の開錠方法を検討・決定		2-3-1
		施設内使用場所（避難・目的別スペース）の検討・決定		
		資器材等の保管場所の検討・決定		
		避難所管理組織を事前に選定		
		共同生活のルール等を検討・決定		
	災害救助地区本部運営の事前準備	災害救助地区本部の開錠方法を検討・決定		2-3-2
		施設内使用場所等の検討・決定		
		自主防防災組織との連携方法を検討・決定		
		指定避難所との連携方法を検討・決定		
		組織の班編成を検討・決定		
地域住民への周知啓発	地域特性の理解	各種ハザードマップにおける各種想定を周知	◎	2-4
		浸水実績など過去の災害履歴を周知		
	災害に関する一般的な知識の理解	指定緊急避難場所と指定避難所の違いを周知	◎	
		避難情報の意味や避難行動の目安を周知	◎	
	各家庭での災害への対策	各家庭での備蓄品や非常持出品の準備を働きかけ	◎	
		住居の耐震化や家具の転倒防止対策を働きかけ		
訓練	自主防災訓練	自主防災訓練を定期的に実施		2-5-1
	指定避難所開設・運営訓練	避難所開設・運営訓練を定期的に実施		2-5-3
	連携	地区本部と自主防が連携した訓練を実施		2-5-4
	災害救助地区本部運営訓練	地区本部と避難所が連携した訓練を実施		
		地区本部と自主防災組織・避難所が連携した訓練を実施		
防災計画	防災計画の策定	地区防災計画を策定		2-6
		その他の防災計画を策定		
その他	学区独自の取り組み	その他、学区独自の取り組みを実施	○	2-7

※実施状況凡例：「◎」実施、「○」一部実施

2-1　地域の防災リーダー

2-1-1　災害対策委員・災害救助地区本部委員

委嘱状況（R6.4.1）	学区の災害対策委員数	学区の災害救助地区本部委員数
	16	29

直近の活動状況	実施時期	内容
	R4.11	自主防災リーダー講習・避難所運営リーダー養成講座
	R5.12	自主防災リーダー講習・避難所運営リーダー養成講座
	R6.4	災害対策委員新任研修
	R6.12	自主防災リーダー講習・避難所運営リーダー養成講座

2-1-2　自主防災組織

自主防災組織の結成状況（R7.3.31）	学区内の自主防災組織数	災害対策委員と自主防災会長の兼務率
	16	100%

自主防災組織一覧	
	上ノ宮第１防災会、上ノ宮第２防災会、森末西部防災会、森末第一防災会、森末第三防災会、森末第四防災会、森末第二防災会、鳥居通３丁目防災会、藤江第一防災会、藤江第五防災会、藤江第三防災会、藤江第二防災会、藤江第六防災会、道下第１防災会、道下第２防災会、豊幡町自主防災会

※　消防局が管理する消防情報システムより抽出

2-1-3　その他の防災リーダー

（自由記述）メンバーや活動状況等を記載

2-1-4　役割分担

検討事項	特記事項
災害救助地区本部の参集者	
各指定避難所への派遣者	
自主防災会長を兼任している災害救助地区本部委員の対応	
その他	

各組織における役割等については、「発災時どうする？地域の防災リーダーの活動」を参考にしてください　名古屋市　地域の防災リーダーの活動　検索

2-2　避難行動

2-2-1　災害種別避難行動

地震	避難の判断	
	避難経路・避難先	
	情報伝達安否確認	
	要配慮者への支援	
	地域住民への周知	
津波	避難の判断	
	避難経路・避難先	
	情報伝達安否確認	
	要配慮者への支援	
	地域住民への周知	
洪水・内水氾濫	避難の判断	
	避難経路・避難先	
	情報伝達安否確認	
	要配慮者への支援	
	地域住民への周知	
高潮	避難の判断	
	避難経路・避難先	
	情報伝達安否確認	
	要配慮者への支援	
	地域住民への周知	

2-2-2　助け合いの仕組みづくり（要配慮者の安否確認、避難行動に関する取り組み等）

これまでの取り組み状況（町内会・自治会数を記載）					
項目	話し合いを実施	地域独自名簿で要配慮者を把握	行政提供名簿※で要配慮者を把握	個別支援計画を作成	左記いずれかの取り組みを実施
実績	16　／　16	／　16	／　16	／　16	16　／　16

※　区役所から受け取ることのできる、避難に支援が必要な方が掲載された名簿

年度別訓練実施状況					
項目	年度	安否確認訓練を実施	要支援者に配慮した避難訓練を実施	名簿を活用した訓練を実施	個別支援計画に基づいた訓練を実施
実績	令和3年度	／　16	／　16	／　16	／　16
	令和4年度	16　／　16	16　／　16	16　／　16	／　16
	令和5年度	16　／　16	16　／　16	／　16	／　16

2-3　各活動の事前準備

2-3-1　避難所開設・運営の事前準備（避難所運営マニュアル事前準備編より）

学区の 指定避難所数	検討事項	検討済 指定避難所数	特記事項
3	避難所の開錠方法等 (事前準備編別表1・2)	3	
	施設内スペース (事前準備編別表3～5)	3	
	資機材・物資等 (事前準備編別表6～8)	3	
	共同生活のルール等 (事前準備編別表9・10)	3	
	避難所管理組織 (事前準備編別表11)	3	

2-3-2　災害救助地区本部運営の事前準備

検討事項		特記事項
災害救助地区本部の開錠方法		近隣協力員及び区政協力委員長により開錠
施設内スペース		地区本部は体育館会議室に設置 運営管理室は会議室に設置
資機材等		デジタル移動無線は体育館会議室に設置
自主防災組織 との連携	情報収集方法	
	情報伝達方法	
指定避難所 との連携	情報収集方法	
	情報伝達方法	
組織の班編成		

各組織の活動マニュアルは市公式ウェブサイトで確認できます

名古屋市　自主防災組織　検索

名古屋市　避難所運営　検索

名古屋市　災害救助地区本部　検索

2-4　地域住民への周知・啓発

実施時期	対象者	内容
R5.3	学区連絡協議会	学区の各種災害のハザード及びわが家のマイ・タイムラインについて周知
R5.3	全世帯	災害避難行動マップを作成し、全世帯へ配布
R6.6	学区民	防災に関する基礎知識を習得するための研修
R6.7	学区民	ワークショップを通じて防災意識の醸成を図る

地域住民への周知・啓発に係る資料は市公式ウェブサイトを参照してください　名古屋市　防災ピックアップ情報　検索

2-5　訓練

2-5-1　自主防災活動（活動状況）

単独の自主防災活動に参加した自主防災組織数	連合での自主防災活動を実施した自主防災組織数
16　／　16	2　／　16

2-5-2　自主防災訓練

区分		講習・勉強会（自助）	講習・勉強会（共助）	安否確認	現地本部運営	初期消火		救出救護		避難誘導		災害図上訓練	事業所合同訓練
						消火器等	スタンドパイプ	応急手当	救助	津波	津波以外		
活動内容別参加自主防災組織数（延べ）	令和4年度	4	0	20	20	0	0	0	1	1	5	0	4
	令和5年度	17	1	17	17	17	3	0	0	0	1	0	0
	令和6年度	2	2	18	18	16	2	0	16	0	17	0	16

2-5-3　指定避難所開設・運営訓練

流れ		取り組み内容	実施状況		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度
開設準備		避難所の開錠			
		避難所施設の安全確認			
		施設内使用場所の確保			
		代表管理者の選任・管理組織の確立			
		避難スペースのレイアウト作り			
開設		避難者の受付			
		避難者の誘導			○
班ごとの運営	総務班	避難者名簿の作成・管理			
		災害救助地区本部との連絡・調整			
		避難者へ情報提供			
		ボランティアの要請・受け入れ			
		避難所外避難者の把握と対応			
	施設班	施設内設備の確認			
		災害用トイレの設置			
		避難所の衛生対策			
		資機材などの設置			
	救護班	応急救護所の確保			
		傷病者の救護・把握			○
		要配慮者への対応			○
	食料班	地下式給水栓の設置			
		備蓄食料の確認			
		食料の配分			
	物資班	備蓄物資の確認			
		食料以外の物資の配分			
宿泊型訓練		参加人数			
		実施場所			
		宿泊の有無			

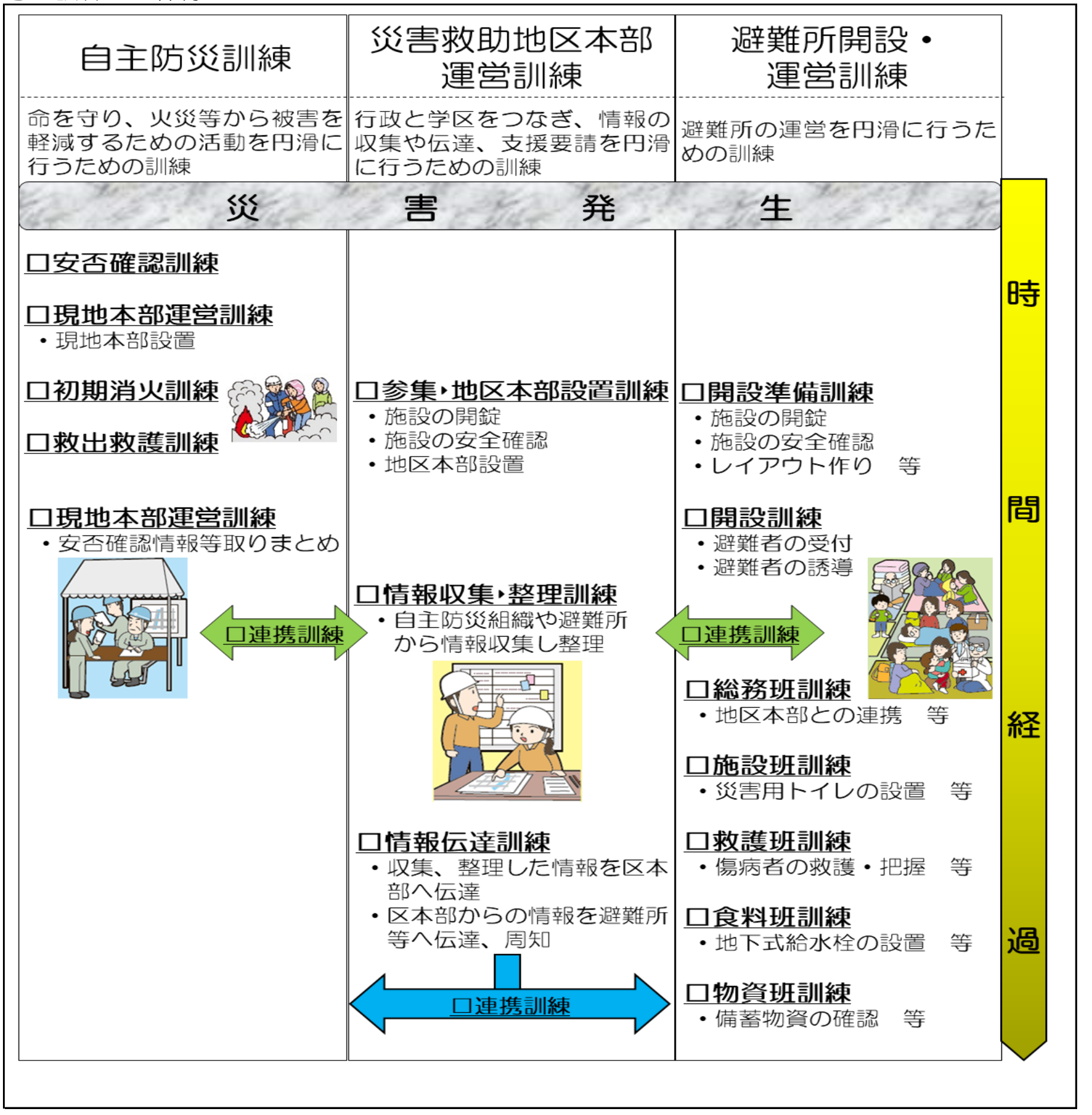
（特記事項）特徴的な取り組み、コロナ対応など

2-5-4　災害救助地区本部運営訓練

流れ		取り組み内容	実施状況		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度
開設		施設の開錠			
		施設の安全確認			
		災害救助地区本部の設置			
連携訓練	情報収集・整理	自主防災組織から情報収集			
		指定避難所から情報収集			
		収集した情報を整理			
	情報伝達	収集した情報を区本部へ伝達			○
		区本部からの情報を自主防災組織へ伝達			
		区本部からの情報を指定避難所へ伝達			

（特記事項）特徴的な取組み　など

参考　訓練の全体像



2-6　防災計画の策定

取り組み内容	策定年度	対象地域	特記事項　（策定している場合、策定検討期間や検討メンバーのことなど、具体を記述）
地区防災計画の策定			
その他の計画			

地区防災計画作成の手引きや作成事例については市公式ウェブサイトを参照してください

名古屋市　地区防災計画　　検索

2-7　その他事業実施

2-7-1　総合水防訓練、総合防災訓練（市民総ぐるみ防災訓練）

	実施年度	実施場所	特記事項
総合水防訓練			
総合防災訓練 （市民総ぐるみ防災訓練）	令和元年	豊臣小学校	

2-7-2　地域ぐるみ耐震化促進支援事業（住宅都市局事業）

取り組み内容	取組年度	全部/一部
地域ぐるみ耐震化促進支援事業	R5	一部

（特記事項）　（取り組んでいる場合、その内容の具体を記述）

2-7-3　その他、学区としての独自の防災活動取り組み状況

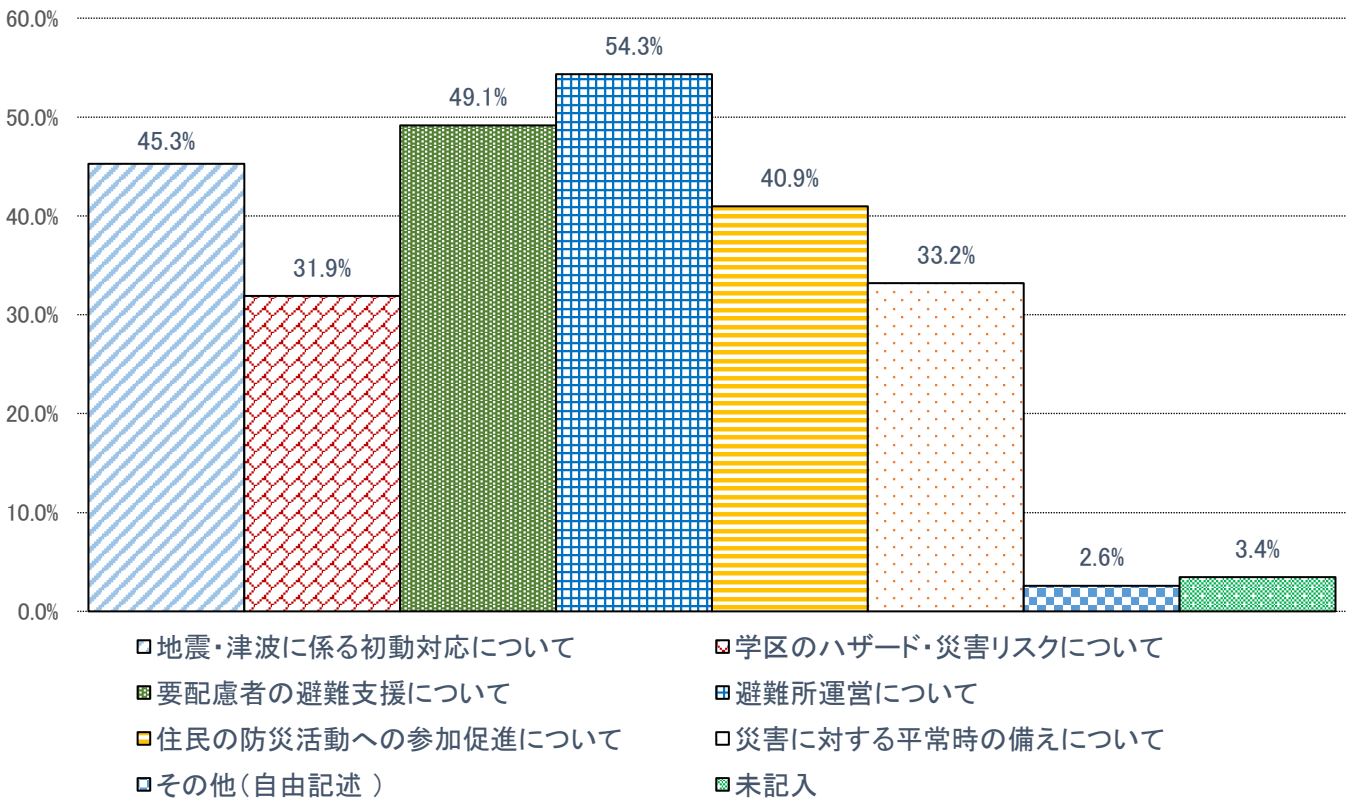
（自由記述）

＜参考＞地域の防災ニーズ

地域の実情を把握している災害対策委員の皆様を対象に聞きました！！
（令和６年度　災害対策委員向け地域防災に係るアンケート調査より抜粋）

中村区

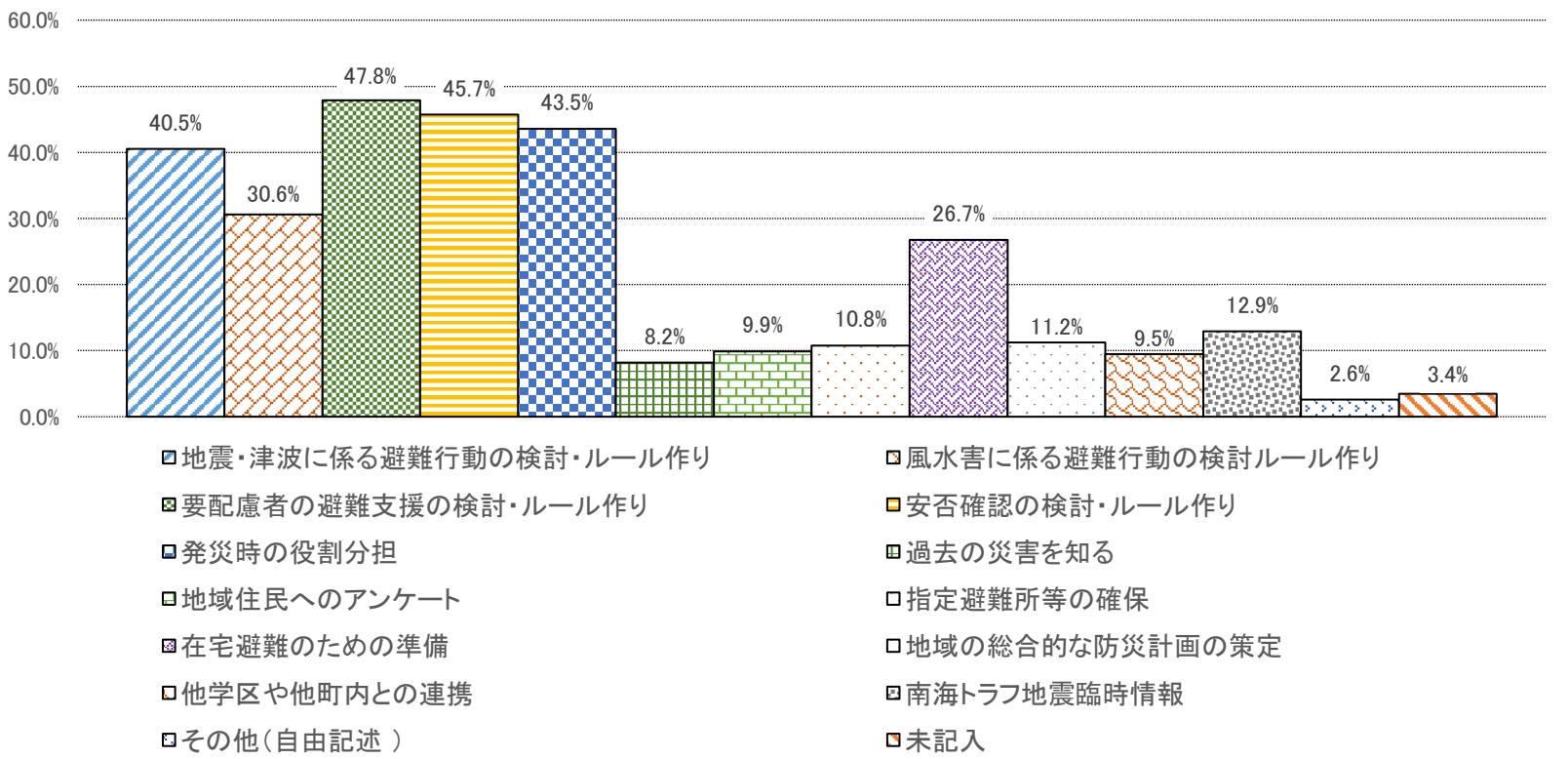
今後受講したい研修や講演会について



【その他】具体的な内容

- 地域的に災害の自覚がないと思う。
- 災害に対する連絡網の整備
- ペット同伴の避難訓練について

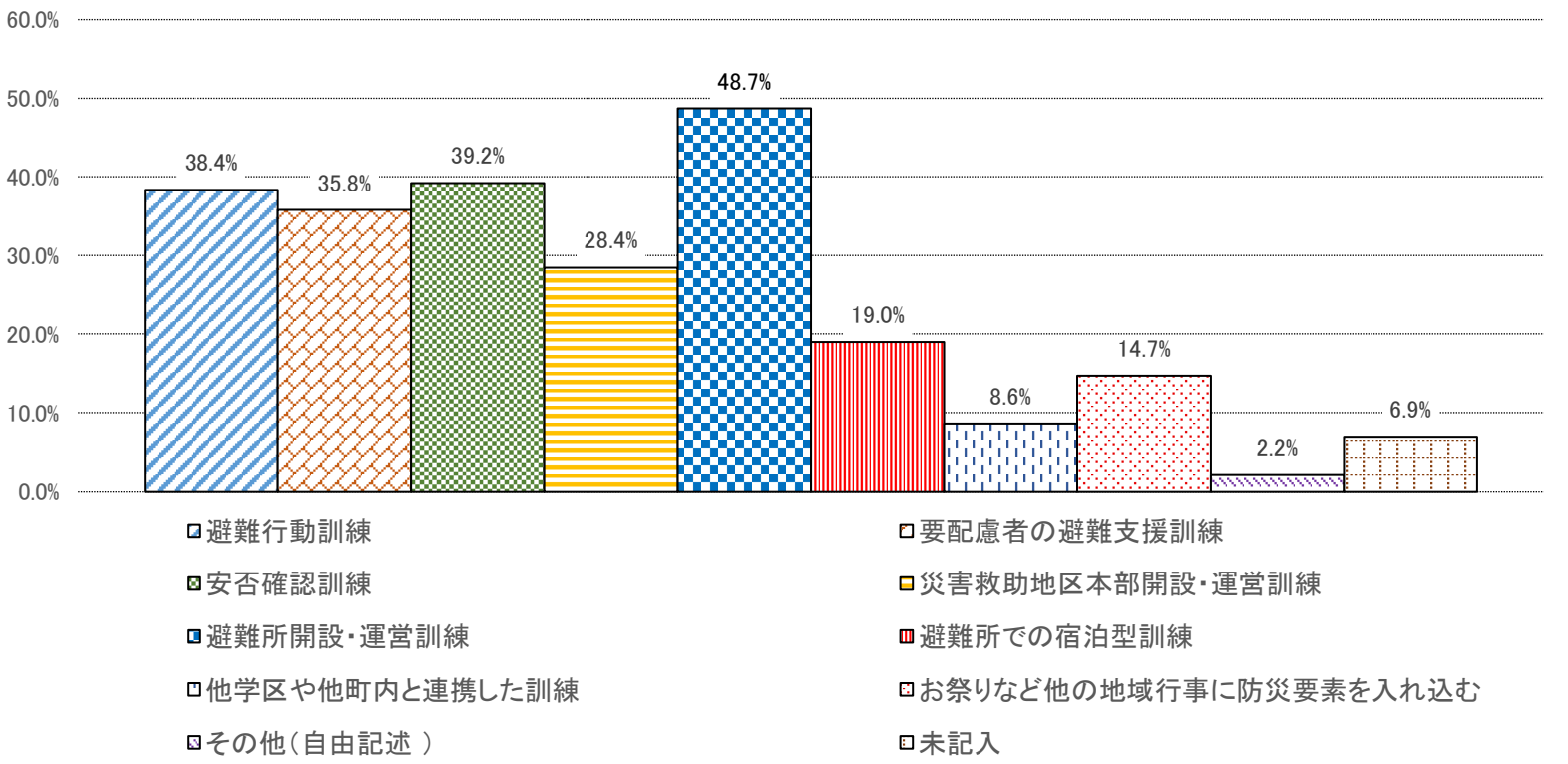
今後住民同士や、区役所・消防署と話し合い・検討したい内容について



【その他】具体的な内容

- 地区に適した災害時の一時対応
- どうしたら自主防災訓練に参加してもらえるのか？
- 地域の連帯を再構築

今後取り組みたい訓練について



【その他】具体的な内容

- 災害時の一時対応
- 毎年継続的に行うのが必要
- 町内総会で初動を学ぶ

地域防災力向上のため

地域の現状、課題やニーズを把握

現状把握に基づく防災活動を検討

検討した防災活動を実施

防災活動を通じた新たな課題の発見